# 1　はじめに

2021 年度も COVID19 に翻弄された。東京オリンピック・パラリンピック開催には賛否両論があったが、選手たちの姿や言葉は開催の意義を十分に物語っていた。中でも私はパラリンピック選手たちの高い「心」と「体」の能力に感銘を受けた。ある新聞に「何らかの障害を持つパラリンピアンは未来の私達です」と書いてあった。加齢や疾病による衰えは誰にでも訪れる。テレビ越しではあったが、障害を持ちながらも真摯に競技する選手たちに勇気づけられた。

本年度は岡村雅医師、谷河育朗医師、寺本寛医師が入局した。皆さん優秀で成長に責任を感じる。5 年間教室を支えてくれた田村志宣准教授は救急講座に異動し、専門性を備えた高水準の総合内科を志向している。これまでの田村准教授の貢献に深く感謝している。西川彰則准教授は造血幹細胞移植を牽引しつつ医療情報部で院内インフラ整備に活躍している。村田祥吾講師は年度後半から医局長と病棟長を兼ね医局と病棟の運営に尽力している。蒸野寿紀講師は地域医療支援センターで先進医療と地域医療の連携を目指している。細井裕樹講師は臨床での問題点を若手とともに英文論文として発表している。山下友佑助教は炎症性疾患の病態解明と骨髄腫の新規治療開発を目指している。各教員には臨床・研究・教育を１ミリでも進めて頂きたい。

臨床では、血液内科病床を 5 西に集約して頂き、スタッフの移動負担が軽減した。ご協力いただいた皆様に感謝している。研究では、研究リーダーの 1 人である田村准教授が異動したが、彼には引き続き若手を指導してもらっている。何らかの新しい知見を見出す作業は大学人の醍醐味であるので、各医局員には時間をみつけて研究にかかわってほしい。卒後教育では、初期研修医 12 人がローテートしてくれた（別紙）。小浴秀樹院生と田畑翔太朗院生は当教室で、田中顕院生は久留米大学大島研究室で勉強中である。3 年前に新しい専門医制度が始まったが、当科所属内科専攻医は無事に内科専門医を取得できそうである。卒前教育では、ウエブ講義や短縮実習が続いており、学部学生の学力もさることながら彼らのモチベーションが心配である。

今年度は私の任期制における評価年度であった。臨床において当科における同種造血幹細胞移植は軌道にのり和歌山県における血液診療の裾野は広がったと自己評価した。教室員の皆さんのおかげである。また、和歌山県の血液診療推進には患者会「ひこばえ」の存在も大きかった。「ひこばえ」は 2021 年 3 月に 27 年間の活動を終えて解散された。「ひこばえ」の皆さんは感無量のお気持ちではなかったかと思う。私から「ひこばえ」の皆様へお礼を書いており、「ひこばえ」の了承を得て、本年報の別ページに掲載した。2021 年 5 月には私の恩師の 1 人である高月清先生（成人 T 細胞白血病や POEMS 症候群（別名：クロウ深瀬症候群、高月病）の記載者）が逝去された。高月先生は「臨床医は専門にこだわらず、いろんな患者さんを診ることが大切だ」と話されていた。高月先生ほどの洞察力を持つ人間はあまりいないが、私達であってもいろんな患者さんを診療することで気づくことがあると考えている。

最後になりましたが、向友代師長をはじめとする 5 西スタッフの皆様、外来スタッフの皆様、輸血部の皆様、病棟薬剤師の三浦愛実先生、HIV 感染症外来を担当頂いている小泉祐介病院教授、医局の花井宏実さん、矢田尚子さんにこの場を借りて感謝申し上げます。

令和４年３月

園木孝志

令和３年７月３日

「ひこばえ」代表　北山　瑛子　様
「ひこばえ」の皆様

謹啓、北山　瑛子様、皆様

長雨の季節、いかがお過ごしでしょうか。

「ひこばえ」27年間のあゆみを拝読いたしました。
娘さんの闘病をきっかけに和歌山で血液疾患患者家族の会を立ち上げられ、これまで活動されてきたことにあらためて尊敬の念を感じております。

私が和歌山県立医科大学血液内科に赴任したのが17年前（平成16年、西暦2005年*）です。当時はスタッフ数も少なく十分な診療ができず、悔しい思いを感じたこともしばしばでした。その後、松岡広先生（現在、神戸大学）、畑中一生先生（現在、大阪赤十字病院**）においでいただき、和歌山県立医科大学血液内科でも造血幹細胞移植が十分に施行可能になったと思っています。現在は、西川彰則先生を中心に、田村志宣先生、村田祥吾先生、蒸野寿紀先生、細井裕樹先生らが若手を指導しながら移植医療をやってくれていますし、移植コーディネーターとして上田かやこさんや高木良看護師が患者さん、ご家族、ドナーさんの支援をやってくれています。ここまで移植医療がよく育ったなと、隔世の感があります。

「ひこばえ」では、ラジオアナウンサーの道上洋三さんのお話し（内容は忘れましたが）が印象的です。また、平成26年2月にはじめて「移植患者さんのつどい」が開催され、たくさんの患者さんたちやご家族、医療スタッフが顔をあわせてお話しができたことは医療スタッフにとっても大きな喜びでした。その後も「移植患者さんのつどい」で、移植を受けた患者さん、ドナーさん、コーディネーターさんのお話しを聞くことができ、移植医療の広がりや人間が本来持っている優しさを感じることができました。

令和の現在、和歌山県立医科大学血液内科に移植医療はほぼ定着したと思っております。しかし、難治性血液疾患の治療はまだまだ改善の余地がありますし、高齢者患者さんをどうするか、増加していく独身者や遠隔にお住いの患者さんをどうサポートするか、等、課題があります。私の任期はあと9年弱です。臨床においては、新しい細胞治療である「CAR-T 療法」を和歌山でやれるようにしたいと思っています。教育では血液内科を支えてくれる若手を育てることが大切です。大学ですので研究も何とか発展させなくてはいけません。課題はたくさんありますが、北山さんや「ひこばえ」の努力、患者さんやご家族の思いを胸にして、今後も努力していきたいと思っております。

北山瑛子様、皆様、「ひこばえ」の活動を本当に有難うございました。私たち医療者にとって患者さ

んやご家族のご支援ほど勇気づけられるものはありませんので、引き続きご指導いただきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

末尾となりましたが、時節柄、お体には十分お気をつけください。

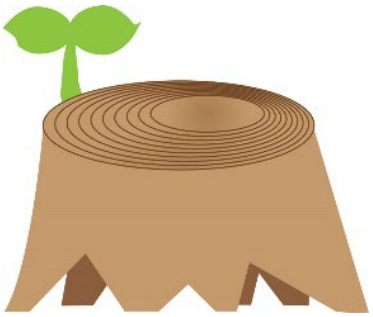
敬意と感謝をこめて。

謹白

和歌山県立医科大学
血液内科
園木　孝志

（原文のまま掲載したが、本年報に掲載するにあたり、2か所修正点があった。また、実際の手紙には「ひこばえ」のイラストを手書きで添えてお送りした。）

*西暦2004年の誤り。
**堺市立総合医療センター



令和 3 年度に当科をローテートした初期研修医

| | | |
|---|---|---|
| 井上　育美 | （１年目） | （2021. 4 月～ 6 月） |
| 近藤　維 | （１年目） | （2021. 4 月～ 6 月） |
| 櫻井　智弘 | （１年目） | （2021. 4 月～ 6 月） |
| 峠　可南子 | （１年目） | （2021. 4 月～ 6 月） |
| 太根　美聡 | （２年目） | （2021. 7 月） |
| 神前　貴洋 | （１年目） | （2021. 7 月～ 9 月） |
| 松房　健 | （１年目） | （2021. 7 月～ 9 月） |
| 天野　雄登 | （２年目） | （2021. 9 月） |
| 中松　和海 | （２年目） | （2021. 9 月） |
| 玉置　佑麻 | （２年目） | （2021. 10 月） |
| 小山　翼 | （１年目） | （2022. 1 月～2 月） |
| 松本　藍 | （１年目） | （2022. 2 月～3 月） |

皆さん、熱心に診療してくれました。有難うございました。血液内科での経験を皆さんの今後に役立てていただきたいと思っております。

園木孝志

## 2　教室現況

（1）教室員

| | | | |
|---|---|---|---|
| 医局 | 教授 | 園木　孝志 | |
| | 准教授 | 田村　志宣 | (2021 年 9 月 30 日まで) |
| | 講師 | 村田　祥吾 | |
| | 講師 | 蒸野　寿紀 | |
| | 講師 | 細井　裕樹 | |
| | 助教 | 山下　友佑 | |
| | 学内助教・大学院生 | 小浴　秀樹 | |
| | 学内助教・大学院生 | 田畑　翔太朗 | (2021 年 10 月入学) |
| | 学内助教 | 榊　絢朱 | |
| | 学内助教 | 武田　里美 | |
| | 学内助教 | 岡村　雅 | |
| | 自治医大卒研修生 | 栩野　祐一 | |
| | 大学院生(久留米大学へ国内留学) | 田中　顕 | (2021 年 4 月入学) |
| | 事業担当補助員 | 花井　宏実 | |
| | 秘書 | 矢田　尚子 | |
| 輸血部 | 准教授 | 西川　彰則 | |
| | 主任 | 松浪　美佐子 | |
| | 主査 | 堀端　容子 | |
| | 主査 | 中島　志保 | |
| | 副主査 | 冨坂　竜矢 | |
| | 医療技師 | 鈴木　誠也 | |
| | 移植コーディネーター | 上田　かやこ | |
| | 研修医 | 井上　育美 | (2021. 4 月～ 6 月) |
| | | 近藤　維 | (2021. 4 月～ 6 月) |
| | | 櫻井　智弘 | (2021. 4 月～ 6 月) |
| | | 峠　可南子 | (2021. 4 月～ 6 月) |
| | | 太根　美聡 | (2021. 7 月) |
| | | 神前　貴洋 | (2021. 7 月～ 9 月) |
| | | 松房　健 | (2021. 7 月～ 9 月) |
| | | 天野　雄登 | (2021. 9 月) |
| | | 中松　和海 | (2021. 9 月) |
| | | 玉置　佑麻 | (2021. 10 月) |
| | | 小山　翼 | (2022. 1 月～2 月) |
| | | 松本　藍 | (2022. 2 月～3 月) |

（２）人事異動

採用

| | | | |
|---|---|---|---|
| 学内助教 | 田畑　翔太朗 | （2021. 4 月 1 日～） | |
| 学内助教 | 岡村　雅 | （2021. 4 月 1 日～） | |
| 学内助教 | 谷河　育朗 | （2021. 4 月 1 日～） | ひだか病院へ出向 |
| 学内助教 | 寺本　寛 | （2021. 4 月 1 日～） | すさみ病院へ出向 |
| 学内助教 | 吉田　菊晃 | （2021. 7 月 1 日～） | |

配置換え・退職

| | | | |
|---|---|---|---|
| 准教授 | 田村　志宣 | （～2021. 9 月 30 日） | 救急・集中治療医学講座へ |
| 医師 | 栩野　祐一 | （～2022. 3 月 31 日） | 白浜町川添診療所へ |
| 学内助教 | 吉田　菊晃 | （～2022. 3 月 31 日） | がん研有明病院へ |
| 学内助教 | 榊　絢朱 | （～2022. 3 月 31 日） | 海南医療センターへ |

# 令和 3 年度　業務分担

2021.10 月～

| | |
|---|---|
| 1. 科長・教育主任：園木<br>（副科長：村田） | ・講義，試験の管理，学生オーガナイザー（4年生）、卒業試験（6年生）、依頼問題作成<br>・病棟実習（必修や選択実習、症例選択）の支援（病棟医長と協力）<br>・臨床実習ディレクター<br>・生涯研修センター長（平成 28 年 4 月～）<br>・更正医療担当<br>・和歌山県原爆被爆健康管理手当て等認定医<br>・和歌山県身体障害者福祉専門分科会審査部会委員<br>・和歌山県エイズ対策推進協議会委員 |
| 2. 医局長：村田<br>（副医局長：細井） | ・秘書支援（採用と更新と検診、薬説明会、年報、home page、研究費申請）<br>・研究会（主宰の講演会、学会）<br>・行事（入局案内、歓送迎会、花見、暑気払、忘年会、医局旅行）<br>・会議の主導（医局会議）<br>・研究打合せ、学会予行、研究費や IRB 申請の支援 |
| 3. 病棟医長：村田<br>（副病棟医長：細井） | ・病床運営（入・退院、主治医指名、他科交渉）<br>・管理（回診、学生実習、当直医・日誌、レセプト、臨床試験、剖検）<br>・検討会（死因検討会）<br>・危機管理（医療ミス、事件、感染対策、緊急連絡、災害訓練、投書対応）<br>・リスクマネージャー<br>・保険請求担当（DPC,入院）<br>・保険請求担当者会議<br>・移植調整医師<br>・症例検討会(CC ﾎﾟｲﾝﾄｺﾒﾝﾄ)<br>・抄読会 |
| 4. 外来医長：細井<br>（副外来医長：山下） | ・診療担当医表、レセプト、外来診療用コンピューターの管理<br>・外来の危機管理（苦情、事故、外来診療相談・クラーク指導責任医師など）<br>・移植調整医師<br>・保険請求担当（外来）<br>・感染対策マネージャー<br>・オーダーリングシステム入力責任者（主）<br>・予約メンテナンス管理責任者（主） |
| 5. 研究主任：山下 | ・研究室運営（機器や試薬管理など基盤整備と配分、安全指導など）<br>・試薬管理責任者 |
| 6. その他<br><br>1)　園木 | **病院委員会**<br>医療安全推進部（重大事故調査委員会）<br>感染制御部（感染制御部運営委員会・感染予防対策員会）<br>薬剤部（薬剤部運営委員会・薬事委員会・医薬品安全管理委員会）<br>輸血部（輸血療法委員会）<br>リハビリテーション部（リハビリテーション部運営委員会）<br>医事課（エイズ診療対策委員会・脳死臓器移植対策委員会）<br>経理課((科長会、腫瘍ｾﾝﾀｰ運営、腫瘍ｾﾝﾀｰ放射線治療、中央手術部運営、放射線安全、病院機能評価認定更新対策)<br>**医学部委員会**<br>研究推進課（研究活動活性化委員会、遺伝子組換え実験安全委員会委員、遺伝子解析研究に関する倫理審査）<br>地域医療支援ｾﾝﾀｰ(内科専門研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ研修委員会) |
| 2)　西川<br>（医療情報部部長） | **病院委員会**<br>経理課（医療情報部運営委員会）<br>・和歌山県骨髄移植対策協議会委員<br>・移植調整医師・委嘱連絡医師<br>・和歌山県献血推進協議会<br>・和歌山県合同輸血療法委員<br>・がん診療拠点病院(相談支援センター業務)担当医<br>総務課（人権・同和対策推進協議会） |
| 3)　村田 | 総務課（人権・同和対策推進協議会） |
| 4)　細井<br>（輸血部次長） | ・各科代表者薬事委員<br>**病院委員会**<br>薬剤部（レジメン審査委員会(副)）<br>輸血部（輸血療法委員会） |
| 5)　蒸野<br>（地域医療支援ｾﾝﾀｰ/副ｾﾝﾀｰ長）<br>（卒後臨床研修ｾﾝﾀｰ/副ｾﾝﾀｰ長） | ・移植調整医師<br>卒後臨床研修ｾﾝﾀｰ（内科専門研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ研修委員会・代表指導医）<br>薬剤部（レジメン審査委員会）<br>経理課（腫瘍ｾﾝﾀｰ薬物療法委員会・がんゲノム医療委員会）<br>病理合同カンファレンス |
| 6)　山下 | ・職場研修委員<br>研究推進課（共同利用施設管理運営委員会）<br>経理課（クリティカルパス） |

## ３　スケジュール表

（１）医学部生の病棟臨床実習
　　（追加資料：令和２年度　臨床実習授業評価アンケート結果をまとめたもの）
（２）血液内科診療の医師勤務表
（３）５階西病棟の当直医表（3 月）
（１）－（３）は次ページ以降に収録。

（４）医局行事
１）週間
　月曜日　医局会（入・退院、連絡事項)、チャートカンファレンス
　火曜日　病棟回診
　水曜日　研究打合せ
　木曜日　カンファレンス（MGH,CC)
　金曜日　HIV カンファレンス(隔週外来)

２）月間
　病理合同カンファレンス
　移植カンファレンス
　症例検討会
　診療会議

３）年間
　科研費申請（9 月)、年報作成（3 月)、人事（随時)

## （1）医学部生の病棟臨床実習(通常スケジュール 2 週間)

**血　液　内　科**

集合場所：**研究棟 10 階**　<u>血液内科医局</u>（内線 5453）

**総括の後、レポートを訂正し、血液内科医局の秘書机に一部提出すること。**

**（訂正したレポートを提出しない場合、実習を履修しなかったと判断する。）**

☆コピーは病棟で行わず医局で行うこと☆

| 日付 | 8 | 9 | 10:30 | 12:30 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| /<br>( / )<br>月 | | 第 1 週目<br>（他科） | | | 第 1 週目<br>（他科） | | | | |
| | | 9:00-<br>レポート進捗<br>状 況 報 告 | 症例学習 | | 第 2 週目<br>※症例学習 | | | | 第 2 週目<br>チャート<br>カンファ<br>レンス |
| /<br>( / )<br>火 | | 第 1 週目<br>（他科） | | | 第 1 週目<br>（他科） | | | | |
| | | 第 2 週目<br>入院患者廻診<br>（園木教授） | 第 2 週目<br>外来<br>（園木教授） | | 症例学習 | 第 2 週目<br>14:00－15:00<br>造血幹細胞移植<br>（村田講師）<br>5 西 CR | | 症例学習 | |
| /<br>( / )<br>水 | | 第 1 週目<br>（他科） | | | | 第 1 週目<br>オリエン<br>テーション<br>（園木教授） | | 症例学習 | |
| | | 症例学習 | | | 症例学習 | 第 2 週目<br>14:00-15:00<br>輸血部実習<br>（松浪主任） | | 第 2 週目<br>15:30－16:30<br>骨　髄　生　検<br>シュミレーション<br>（蒸野講師・田畑先生）<br>5 西 CR | |
| /<br>( / )<br>木 | 第 2 週目<br>8:00-<br>8:30<br>ｶﾝﾌｧﾚｽ<br>(CC/<br>MGH) | 外来・内科診察<br>（園木教授 | | | 第 1 週目<br>症例学習※ | | | | |
| | | | | | 症例学習 | 第 2 週目<br>14:00－15:00<br>血球形態を学ぶ<br>（西川准教授）<br>5 西 CR | | 第 2 週目<br>15:00-<br>HIV 感染症を<br>把　　え　る<br>（園木教授）<br>5 西 CR | |
| /<br>( / )<br>金 | | 症例学習 | | | 第 1 週目<br>症例学習※ | | | | |
| | | | | | 第 2 週目<br>※症例学習 | | | 第 2 週目 16:00-<br>ﾚﾎﾟｰﾄ発表会/<br>ﾚﾎﾟｰﾄ提　出<br>(園木教授)5 西 CR | |

※随時、疾患について討論を行う（園木）

教官から指摘を受けた個所を訂正し、必ず本日中に提出すること

# 医学部生の病棟臨床実習(コロナ禍スケジュール１週間)

血　液　内　科

研究棟 10 階　血液内科医局（内線 5453）

総括の後、レポートを訂正し、血液内科医局の机に一部提出すること。

（訂正したレポートを提出しない場合、実習を履修しなかったと判断する。）

☆コピーは病棟で行わず医局で行うこと☆

| 日付 | 8 | 9 | 10 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| /<br>(月) | | （他科） | | | | （他科） | | 16:15-<br>オリエンテーション<br>（園木教授）<br>医局 | |
| /<br>(火) | | （他科） | | | | （他科） | | | |
| /<br>(水) | | 症例学習 | | | 症例学習<br>※ | 14:00-15:00<br>輸血部実習<br>（松浪主任）<br>病院棟 3 階 | | 15:30-16:30<br>骨髄生検<br>シュミレーション<br>（蒸野講師・田畑先生）<br>5 西 CR | |
| /<br>(木) | 8:00-<br>8:30<br>MGH カンファレンス<br>（園木教授）<br>医局 | 9:00-<br>外来・内科診察<br>（園木教授）<br>病院棟 3 階 | | | | 14:00-15:00<br>血球形態を学ぶ<br>（西川准教授）<br>5 西 CR | | 15:00-16:00<br>HIV 感染症を把える。<br>（園木教授）<br>5 西 CR | |
| /<br>(金) | 症例学習 | | | | | 14:00-15:00<br>造血幹細胞移植<br>（村田講師）<br>5 西 CR | | 16:00-17:00<br>総括/ﾚﾎﾟｰﾄ提出<br>（園木教授）<br>5 西 CR | |

※随時、疾患について討論を行う（園木）

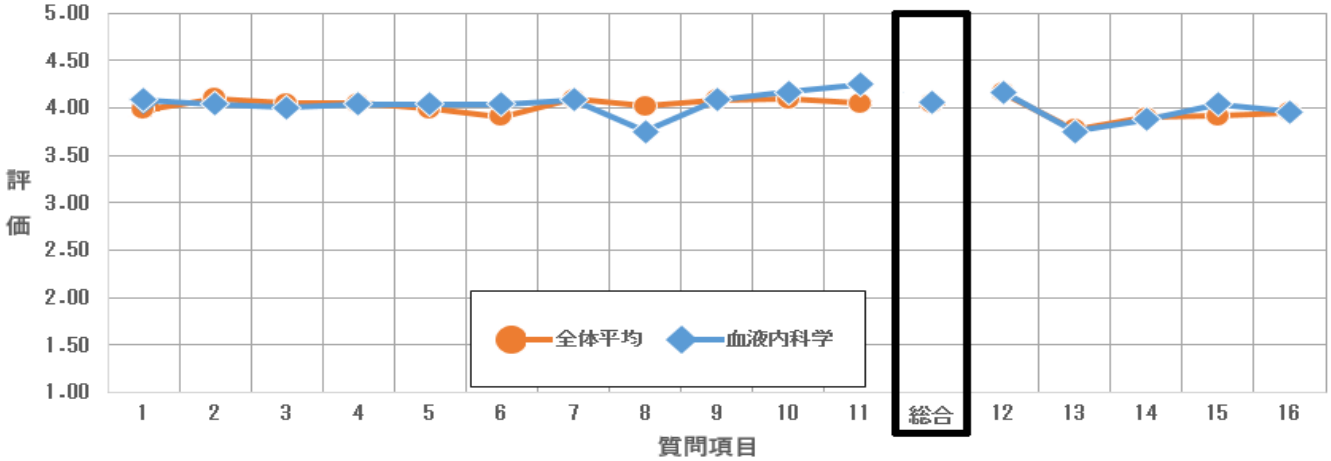
教官から指摘を受けた箇所を訂正し、必ず医局に本日中に提出すること。

# 令和２ 年度 臨床実習 授業評価

（回答者数） 24 人

| 質問項目 | A | | | | | | | | | B | | 総合 | C | | | | D |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 血液内科学 | 4.08 | 4.04 | 4.00 | 4.04 | 4.04 | 4.04 | 4.08 | 3.75 | 4.08 | 4.17 | 4.25 | 4.05 | 4.17 | 3.75 | 3.88 | 4.04 | 3.96 |
| 全体平均 | 3.98 | 4.10 | 4.05 | 4.05 | 3.99 | 3.90 | 4.10 | 4.02 | 4.08 | 4.09 | 4.05 | 4.04 | 4.16 | 3.77 | 3.90 | 3.91 | 3.95 |

| | |
|---|---|
| 総合 | 質問項目 1～11 の平均 |
| | 質問項目 1～11 の内、最大値 |
| | 質問項目 1～11 の内、最小値 |




【質問内容】

**A 指導医について** （まったく思わない①……②……③……④……⑤とても思う）

1 指導医と討論する時間が充分にあった。
2 親切に接してくれた。
3 問題点を見つけるよう適切に指導してくれた。
4 時間を厳守するよう適切に指導してくれた。
5 実習中の最終目標を明確に示してくれた。
6 毎日の目標を示してくれた。
7 医学的知識について適切に指導してくれた。
8 医学的技能について適切に指導してくれた。
9 知識・技能について誤りがあった場合、注意や指導をしてくれた。

**B セミナーについて（行われなかった場合は記入不要）**

10 よく準備された教材を使用してくれた。
11 病態との関連について適切に説明してくれた。

**C 自己評価**

12 知識が増えた。
13 基本的技能ができるようになった。
14 診断・治療の選択が可能になった。
15 症例の提示（発表）ができるようになった。

**D 臨床実習の総合的評価** （悪い①……②……③……④……⑤良い）

16 臨床実習を総合的に評価してください。

## (2) 血液内科診療の医師勤務表

2021 年 2 月～

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 外来診察１ | 村田 | 園木(新患) | 田村 | 園木(新患) | 園木 |
| 診察２ | 山下 | 西川 | 蒸野 | 村田 | 西川 |
| 診察３ | 松山 | | 栩野 | 西川 | 小泉 |
| 診察４ | 松山/蒸野(新患) | 小浴 | 村田(新患) | 細井(新患) | 山下(新患) |
| 処置係 | 岡村 | 榊 | 田畑(吉田) | 岡村 | 吉田 |
| 他病棟当日診察依頼 | 岡村(小浴) | 岡村(吉田) | 栩野(田畑) | 榊(栩野) | 吉田(榊) |
| 予約外当日外来新患 | 松山/蒸野 | 栩野(山下) | 村田 | 細井 | 山下 |
| フォローアップ外来 | 蒸野 | 西川 | 村田 | 細井 | --- |
| マルク診断 | 山下 | 蒸野 | 細井 | 村田 | 西川 |
| 医局行事 | 医局会<br>(15:00-)<br>病理カンファレンス<br>(第1週)<br>(16:30-) | 病棟回診<br>(8:30-)<br>抄読会(第 2 週)<br>(17:30-) | | MGM<br>(学生実習 2 週目)<br>(8:00-)<br>移植カンファレンス<br>(毎月月末)<br>(17:00-)<br>リサーチカンファ(第2週)(17:30-)<br>診療会議(第 4 週)<br>(17:30-) | |

## (3) 5 階西病棟の当直医表

2022 年 3 月

| 日曜日 | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 | 土曜日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 3 月 1 日<br>榊 | 3 月 2 日<br>岡村 | 3 月 3 日<br>村田 | 3 月 4 日<br>栩野 | 3 月 5 日<br>蒸野 |
| 3 月6日<br>細井 | 3 月 7 日<br>西川 | 3 月 8 日<br>田畑 | 3 月 9 日<br>吉田 | 3 月 10 日<br>小浴 | 3 月 11 日<br>岡村 | 3 月 12 日<br>榊 |
| 3 月 13 日<br>山下 | 3 月 14 日<br>吉田 | 3 月 15 日<br>小浴 | 3 月 16 日<br>村田 | 3 月 17 日<br>榊 | 3 月 18 日<br>田畑 | 3 月 19 日<br>岡村 |
| 3 月 20 日<br>栩野 | 3 月 21 日<br>吉田 | 3 月 22 日<br>月山(蒸野) | 3 月 23 日<br>榊 | 3 月 24 日<br>山下 | 3 月 25 日<br>栩野 | 3 月 26 日<br>田畑 |
| 3 月 27 日<br>小浴 | 3 月 28 日<br>蒸野 | 3 月 29 日<br>細井 | 3 月 30 日<br>岡村 | 3月31日<br>村田 | | |

## 4　主な活動内容

### (1)　学会および研究会

#### 1)　全国学会

細井裕樹、蒸野寿紀、弘井孝幸、村田祥吾、西川彰則、田村志宣、園木孝志：「当科における活性型血液凝固第Ⅶ因子製剤を投与された後天性血友病 A 症例の検討」、第 43 回日本血栓止血学会学術集会（Web 開催）2021.5.28-31

西川彰則：「人工知能を用いた在宅輸血患者の危険行動検知システムの開発」、第 69 回日本輸血・細胞治療学会学術総会　2021.6.4-6　東京

Shotaro Tabata, Hiroki Hosoi, Ken Tanaka, Takayuki Hiroi, Yohei Kida, Toshiki Mushino, Shogo Murata, Shinobu Tamura, Takeshi Ikeda, Takashi Sonoki: Reduction of IgG level after R-chemo might be a predictive factor for prognosis in B-cell lymphoma 第 83 回日本血液学会学術集会（Web 開催）2021.9.23-25　仙台

Kikuaki Yoshida, Toshiki Mushino, Hideki Kosako, Yoshiaki Huruya, Ken Tanaka, Takayuki Hiroi, Yoshikazu Hori, Masaya Morimoto, Yusuke Yamashita, Hiroki Hosoi, Shogo Murata, Rin Sakaguchi, Akinori Nishikawa, Hiroaki Miyoshi, Koichi Ohshima, Takashi Sonoki: Clinical impact of CD30 expression in adult T cell leukemia/lymphoma:Wakayama retrospective study 第 83 回日本血液学会学術集会（Web 開催）2021.9.23-25　仙台

Takayuki Hiroi, Hiroki Hosoi, Kodai Kuriyama, Masaya Morimoto, Shogo Murata, Toshiki Mushino, Shinobu Tamura, Takashi Sonoki: Long-term follow-up of DLBCL patients aged over 80 years treated with reduced dose R-THP-COP 第 83 回日本血液学会学術集会（Web 開催）2021.9.23-25 仙台

Ken Tanaka, Hiroki Hosoi, Rieko Kodama, Shotaro Tabata, Takayuki Hiroi, Yohei Kida, Toshiki Mushino, Shogo Murata, Shinobu Tamura, Takeshi Ikeda, Takashi Sonoki: Role of BM aspiration clots: comparison of clots, biopsies, and smears for evaluating BM cellularity　第 83 回日本血液学会学術集会（Web 開催）2021.9.23-25　仙台

Hideki Kosako, Hiroki Hosoi, Minako Tanaka, Ryuta Iwamoto, Yoshifumi Iwahashi, Yuki Mori, Ikuro Tanigawa, Ayaka Sakaki, Satomi Takeda, Yuma Yokoya, Shotaro Tabata, Kikuaki Yoshida, Yuichi Tochino, Takayuki Hiroi, Yusuke Yamashita, Toshiki Mushino, Shogo Murata, Akinori Nishikawa, Shinobu Tamura, Masatoshi Jinnin, Takashi Sonoki: Primary myelofibrosis showing Sweet’s syndrome, progressive dysplasia, and mutational evolution 第 83 回日本血液学会学術集会（Web 開催）2021.9.23-25　仙台

Shogo Murata, Shotaro Tabata, Yoriko Matsuyama, Kikuaki Yoshida, Ken Tanaka, Masaya Morimoto, Yusuke Yamashita, Hiroki Hosoi, Toshiki Mushino, Akinori Nishikawa, Shinobu Tamura, Takashi Sonoki: Pathological significance of soluble NKG2D ligands in MDS 第 83 回日本血液学会学術集会（Web 開催）2021.9.23-25　仙台

Satomi Takeda, Shogo Murata, Ryuta Iwamoto, Ayaka Sakaki, Yuma Yokoya, Hideki Kosako, Yuichi Tochino, Takayuki Hiroi, Yusuke Yamashita, Hiroki Hosoi, Toshiki Mushino, Akinori Nishikawa, Shinobu Tamura, Koichi Ohshima, Shinichi Murata, Takashi Sonoki: A case of primary central nervous system extranodal NK/T-cell lymphoma, nasal type 第 83 回日本血液学会学術集会（Web 開催）2021.9.23-25　仙台

Shinobu Tamura, Yusuke Yamashita, Shuhei Morita, Takashi Sonoki: Blockade of IRE1α signaling exhibits antimyeloma effects via downregulation of Polo-like kinase 2　第83回日本血液学会学術集会（Web開催）2021.9.23-25　仙台

西川彰則：「人工知能を用いた在宅輸血患者の危険行動検知システムの開発」、第41回医療情報学連合大会 2021.11.18-21 名古屋

Yusuke Yamashita, Takashi Orimo, Takashi Kato, Yuri Fukuda-Ohta, Izumi Sasaki, Hiroaki Hemmi: Hypomorphic mutation of Lig4gene in mice predisposes to intestinal inflammation driven by CD4+ Th1 cells 第50回日本免疫学会学術集会(ハイブリッド開催)　2021.12.8　奈良

蒸野寿紀、山野貴司、北野尚美、池田和功、松本政信、雑賀博子、和田安彦、新谷浩子、上野雅巳、宮下和久：「コロナ禍での地域枠医学生を対象とした保健所・地域病院実習実現までの経緯と一考察」、第80回日本公衆衛生学会総会 2021.12.21-23

2)　地方学会

谷河育朗、小浴秀樹、細井裕樹、弘井孝幸、田村志宣、園木孝志、高　真守、岩元竜太、岡本晃直、冨田章裕：「血漿と髄液のliquid biopsy が確定診断に寄与したPCNSL様症状を呈するIVLBCLの一例」、第115回近畿血液学地方会（Web開催）2021.6.5

中井真衣、武田里美、村田祥吾、田村志宣、園木孝志：「脳出血を合併したTAFRO症候群の1例」、第115回近畿血液学地方会（Web開催）2021.6.5

吉田菊晃、横矢悠馬、小浴秀樹、堀　善和、森本将矢、岡本幸春、蒸野寿紀、田村志宣：「地域基幹病院における慢性骨髄性白血病に対するチロシンキナーゼ阻害剤の有効性・安全性に関する後方視的検討」、第115回近畿血液学地方会（Web開催）2021.6.5

加藤勇冴、細井裕樹、山下友佑、蒸野寿紀、村田祥吾、西川彰則、田村志宣、園木孝志：「当施設における骨髄異形成症候群に対する同種造血幹細胞移植前治療としての化学療法の臨床的意義の検討」、第115回近畿血液学地方会（Web開催）2021.6.5

榊　絢朱、弘井孝幸、蒸野寿紀、稲垣貴也、上硲敦史、生駒顕、西川彰則、田村志宣、園木孝志：「びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫の化学療法中に仮性動脈瘤による胆道出血を来した1例」、日本内科学会第232回近畿地方会 2021.6.26

大江　直、横矢悠馬、榊　絢朱、弘井孝幸、細井裕樹、村田祥吾、蒸野寿紀、西川彰則、田村志宣、園木孝志：「慢性B型肝炎合併びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫に対しリツキシマブ併用化学療法を施工した一例」、第233回近畿地方会（Web開催）2021.9.11

岡村　雅、村田祥吾、山下友佑、細井裕樹、蒸野寿紀、西川彰則、田村志宣、園木孝志：「肺癌リンパ節転移との鑑別に時間を要した濾胞性リンパ腫の1例」、第233回近畿地方会（Web開催）2021.9.11

松山依子、堀谷亮介、平山陽士、青木達也、橋本忠幸、細井裕樹：「S状結腸癌に合併した温式自己免疫性溶血性貧血(AIHA)の1例」、第233回近畿地方会（Web開催）2021.9.11

園木孝志：「HIV感染症治療の現在」、第91回日本感染症学会西日本地方会学術集会　2021.11.5　岐阜

吉田菊晃、蒸野寿紀、榊　絢朱、松山依子、田村志宣、松本雅則、園木孝志：「COVID-19mRNA ワクチン接種後に発症した後天性血栓性血小板減少性紫斑病」、第 65 回日本輸血・細胞治療学会近畿支部総会

2021.11.20　大阪
榊　絢朱、蒸野寿紀、村田祥吾、田村志宣、園木孝志：「ラモトリギンによる血球貪食性リンパ組織球症の１例」、第 116 回近畿血液学地方会　2021.11.27　兵庫

峠可南子、蒸野寿紀、榊　絢朱、村田祥吾、田村志宣、園木孝志：「BR 療法を施行した日本型有毛細胞白血病亜型(HCL-JV)の１例」、第 116 回近畿血液学地方会　2021.11.27　兵庫

松房　健、岡村　雅、小浴秀樹、細井裕樹、村田祥吾、蒸野寿紀、田村志宣、園木孝志：「MTX 大量療法不耐容に対してチラブルチニブ維持療法が奏効したPCNSLの１例」、第116回近畿血液学地方会2021.11.27 兵庫

太根美聡、榊絢朱、吉田菊晃、蒸野寿紀、藤田澄吾子、田村志宣、園木孝志：「*Streptococcus agalactiae* 菌血症を契機に診断された三尖弁感染性心内膜炎の１例」、日本内科学会第 234 回近畿地方会 2021.12.4

吉田菊晃、蒸野寿紀、小浴秀樹、古家美昭、田中　顕、弘井孝幸、堀　善和、森本将矢、山下友佑、細井裕樹、村田祥吾、阪口　臨、西川彰則、田村志宣、園木孝志：「成人 T 細胞白血病リンパ腫の CD30 発現に関する和歌山県内多施設後方視的研究」、第 49 回和歌山悪性腫瘍研究会　2021.12.11　和歌山県立医科大学

谷河育朗、蒸野寿紀、横矢悠馬、小浴秀樹，森本将矢、松野正平、田村志宣、園木孝志：「甲状腺機能低下症に合併した後天性 von Willebrand 症候群の１例」、日本内科学会第 235 回近畿地方会 2022.3.12

**3)　その他（WEB 研究会等）**
**細井裕樹**：「高齢悪性リンパ腫患者での投与量調整　大量化学療法併用の自家移植の安全性と有効性」、Lymphoma Seminar　2021.4.2

**西川彰則**：「当院の Ph-ALL の同種移植」、Hematology seminar in Wakayama 2021　2021.4.23

**田村志宣**:「慢性骨髄性白血病治療における TKI の位置づけ」、Otsuka Hematology Web Seminar　2021.5.28

**蒸野寿紀**：「サークリサ投与を考慮する患者像について」、MM ZOOM mtg in WAKAYAMA　2021.6.11

**栩野祐一**：「自家移植後再燃した POEMS 症候群」、多発性骨髄腫セミナーin 和歌山　2021.6.25

**田村志宣**：「慢性骨髄性白血病慢性期治療の勘どころ」、Hematology WEB Seminar　2021.7.2

**蒸野寿紀**：「こんなときの PNH 治療は？」、葉月 PNH Web Seminar　2021.8.27

**蒸野寿紀**:「サークリサ投与を考慮する患者像について」、Myeloma Web Conference in Kansai 2021.10.13

**村田祥吾**：当院における高齢者AML治療-Venetoclax使用経験-　AML治療研究会 2021.10.22 和歌山

**田村志宣**：「慢性骨髄性白血病慢性期患者に対するポナチニブの使用経験」、アイクルシグ発売 5 周年記念講演会 in Osaka　2021.11.12

**西川彰則**：「非接触技術を用いた在宅輸血の安全な見守り」、兵庫県輸血医療従事者研修会 2021.11.13 兵庫

**西川彰則**：「人工知能を用いた在宅患者の遠隔見守りに関する研究」、第30回テクノ・ビジネスフェア 2021.11.25　和歌山
**西川彰則**：「AIを用いた在宅輸血患者の安全な見守りシステムの開発」、health care week インテル IoTプラネット 2021.11.25

**吉田菊晃**：「地域基幹病院における慢性骨髄性白血病に対するチロシンキナーゼ阻害剤の有効性・安全性に関する後方視的検討」、Hematology Clinical Experts Seminar　2021.12.14

**西川彰則**：「DXとは何か～DXから見る和歌山の未来」、わかやま地域情報化フォーラム2022　2022.1.20

**西川彰則**：「多発性骨髄腫病態と最近の治療」、臨床検査科のためのMM臨床講座 2022.1.21

**西川彰則**：「在宅輸血の現状と課題」、奈良県合同輸血療法委員会主催講演会 2022.2.3

**谷河育朗**：「後にも先にもハクビシン」、第18回Web WEDGE 2022.2.22

**田村志宣**：「慢性期 CML におけるポナチニブの有害事象とそのマネージマントを考える」、大塚製薬講演会　使用経験から捉え直すポナチニブの使い方　2022.3.9

**蒸野寿紀**：「遠隔LTFU外来導入の経緯と実際の運用について」、造血幹細胞移植地域拠点病院事業 多職種チームで移植医療を学ぼう！企画、2022.3.11

**髙木良**：「当院におけるLTFU外来と遠隔LTFU外来の体制について」、造血幹細胞移植地域拠点病院事業 多職種チームで移植医療を学ぼう！企画、2022.3.11

## (2)　学術論文

### 1)　和文原著

### 2)　英文原著

**Akinori Nishikawa**, Yoshihiro Fujimori, Noriko Sakano, Toshiki Mushino, Shinobu Tamura, Shingo Kasahara, Hiroshi Akasaka, Takashi Sonoki:Remote vital signs data monitoring during home blood transfusion: A pilot study. Health science reports. 4(3),e380, 2021

Nobuhiro Hiramoto, Hirohito Yamazaki, Yukinori Nakamura, Naoyuki Uchida, Makoto Murata, Tadakazu Kondo, Satoshi Yoshioka, Tetsuya Eto, **Akinori Nishikawa**, Takafumi Kimura, Tatsuo Ichinohe, Yoshiko Atsuta, Yasushi Onishi, Ritsuro Suzuki, Takehiko Mori: Total body irradiation-containing conditioning regimens without antithymocyte globulin in adults with aplastic anemia undergoing umbilical cord blood transplantation. Annals of hematology. 101(1):165-175, 2022

**Hiroki Hosoi**, Shogo Murata, Tetsuro Suzuki, Tian-Cheng Li, Kazuo Hatanaka, Keiko Tanaka-Taya, Toshiki Mushino, Kodai Kuriyama, Shinobu Tamura, Nobuyoshi Hanaoka, Takashi Sonoki : A cluster of BK polyomavirus-associated hemorrhagic cystitis after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation: Transplant infectious disease

Kanazawa N, Hemmi H, Kinjo N, Ohnishi H, Hamazaki J, Mishima H, Kinoshita A, Mizushima T, Hamada S, Hamada K, Kawamoto N, Kadowaki S, Honda Y, Izawa K, Nishikomori R, Tsumura M, **Yamashita Y**, Tamura S, Orimo T, Ozasa T, Kato T, Sasaki I, Fukuda-Ohta Y, Wakaki-Nishiyama N, Inaba Y, Kunimoto K, Okada S, Taketani T, Nakanishi K, Murata S, Yoshiura KI, Kaisho T.

Heterozygous missense variant of the proteasome subunit β-type 9 causes neonatal-onset autoinflammation and immunodeficiency. Nat Commun. 2021 Nov 24;12(1):6819.

Tamura S, Kaki T, Niwa M, Yamano Y, Kawai S, **Yamashita Y**, Tanaka H, Saito Y, Kajimoto Y, Koizumi Y, Yamaue H, Nakao N, Nojiri T, Hironishi M. Risk Factors for Therapeutic Intervention of Remdesivir in Mild to Moderate COVID-19-A Single-Center Retrospective Study of the COVID-19 Fourth Pandemic Period in Wakayama, Japan. Medicina (Kaunas). 2022 Jan 13;58(1):118.

### 3) 症例報告

(和文)

鈴木映美、岩西広樹、安田慎吾、細井裕樹、雑賀司珠也：「急性網膜壊死治療後のアシクロビル予防量投与中に僚眼に発症した１例」、臨床眼科 75(10)：1372-1377,2021

橋本　彩、国本佳代、貴志知生、松山依子、細井裕樹、古賀浩嗣、石井文人、金澤信雄、神人正寿：「リツキシマブを投与した濾胞性リンパ腫に伴った腫瘍随伴性天疱瘡の１例」、臨床皮膚科 75(1):60-66,2021

(英文)

**Shinobu Tamura,** Hideki Kosako, Yoshiaki Furuya, Yusuke Yamashita, Toshiki Mushino, Hiroyuki Mishima Akira Kinoshita, Akinori Nishikawa, Ko-Ichiro Yoshiura, Takashi Sonoki: A Patient with Kabuki Syndrome Mutation Presenting with Very Severe Aplastic Anemia: Acta Haematologica 2022;145(1):89-96.

Yuina Akagi, Takashi Kato, **Yusuke Yamashita**, Hiroki Hosoi, Shogo Murata, Shuto Yamamoto, Kenji Warigaya, Taisei Nakao, Shinichi Murata, Takashi Sonoki and Shinobu Tamura: Intracranial Hemorrhage in a Patient with TAFRO Syndrome Treated with Cyclosporine A and Rituximab: Medicina (Kaunas). 2021 Sep 16;57(9):971.

**Shotaro Tabata** Toshiki Mushino , Takayuki Hiroi , Ryuta Iwamoto , Shinobu Tamura , Takashi Sonoki:Mollaret cells accompanied with HSV-2 meningitis after an allogeneic stem cell transplantation: ID Cases 25:e01224, 2021

Takahito Wakamiya, **Shinobu Tamura,** Fumiyoshi Kojima, Yasuo Kohjimoto, Isao Hara: Disseminated carcinomatosis of the bone marrow caused by prostate cancer diagnosed with only bone marrow biopsy :IJU Case Report

Kyohei Miyamoto, Yusuke Koizumi, **Shinobu Tamura** , Tsuyoshi Nakashima , Kaori Kobai, Rikako Tanaka , Mami Shibata, Nozomu Shima , Shigeki Nemoto, Nobu Fukumoto, Seiya Kato:Multisystem inflammatory syndrome in adults after acute coronavirus disease 2019 in a Japanese woman: A case report: journal of infection and chemotherapy

Shutaro Kubo, Momoko Miyakawa, Asuka Tada, Hirotsugu Oda, Hideki Motobayashi, Sadahiro Iwabuchi, **Shinobu Tamura,** Miyuki Tanaka, Shinichi Hashimoto: Effects of Bovine Lactoferrin on Plasmacytoid Dendritic Cells in Peripheral Blood of Healthy Adults: 薬理と病理 49 (8) 2021

Tadayuki Hashimoto, Tatsuya Aoki, Yoshitaka Kawabata, Yoshihito Owai, Yoshikazu Matsuda, **Shinobu Tamura**: Nonbacterial Thrombotic Endocarditis Associated with Acute Promyelocytic Leukemia: An Autopsy Case Report: Medicina 57(11)2021

**Hosoi H**, Mushino T, Nakashima K, Kuriyama K, Tamura S, Murata S, Imadome KI, Ohshima K, Sonoki T. Composite Epstein-Barr Virus-associated T-lymphoblastic and Peripheral T-cell Lymphomas: A Clonal Study. *Internal Medicine* 60:2119-2123, 2021

**Kikuaki Yoshida,** Ayaka Sakaki, Yoriko Matsuyama, Toshiki Mushino, Masanori Matsuoka, Takashi Sonoki, Shinobu Tamura: Acquired Thrombotic Thrombocytopenic Purpura Following BNT162b2 mRNA Coronavirus Disease Vaccination in a Japanese Patient: Internal Medicine

**Shotaro Tabata**, Hiroki Hosoi, Shogo Murata, Satomi Takeda, Toshiki Mushino, Takashi Sonoki: Severe aplastic anemia after COVID-19 mRNAvaccination: Causality or coincidence?:Journal of Autoimmunity 126 2022

(レター)
**Toshiki Mushino**, Akinori Nishikawa, Takayuki Hiroi, Yoriko Matsuyama, Hiroki Hosoi, Shogo Murata, Shinobu Tamura, Takashi Sonoki: Detection of pulse rate elevation by Apple Watch in a patient with bronchiolitis obliterans syndrome after allogeneic stem cell transplantation: Annals of Hematology. 101: 897-899, 2022

**Hiroki Hosoi**, Shogo Mutara, Shinobu Tamura, Takashi Sonoki: Dose-adjusted high-dose chemotherapy with autologous stem cell transplantation for elderly (>70 years old) lymphoma patients：Annals of Hematology 101:205-207, 2022

**Hiroki Hosoi**, Ikuro Tanigawa, Hideki Kosako, Akinao Okamoto, Ryuta Iwamoto, Jinsoo Koh, Megumi Mori, Takayuki Hiroi, Toshiki Mushino, Shogo Murata, Shinobu Tamura, Shin-Ichi Murata, Akihiro Tomita, Takashi Sonoki:Liquid biopsies of plasma and cerebrospinal fluid are useful for detection of intravascular lymphoma with central nervous system symptoms alone: Annals Hematology 101:709-711,2022

Ken Tanaka, **Hiroki Hosoi**, Rieko Kodama, Shotaro Tabata, Takayuki Hiroi, Yohei Kida, Toshiki Mushino, Shogo Murata, Shinobu Tamura, Takeshi Ikeda, Takashi Sonoki:Role of bone marrow aspiration clots for evaluating cellularity:comparison of clots, biopsies, and smears: Annals Hematology 100:2843-2844,2021

Yoriko Matsuyama, **Hiroki Hosoi**, Ryosuke Horitani, Shinichiro Kawamoto,Tadayuki Hashimoto, Masatomo Kimura,Hiroaki Nakai,Toshiki Mushino,Takashi Sonoki：Management of warm autoimmune hemolytic anemia related to band 3-positive colon carcinoma：Annals Hematology 2021in press

**Hiroki Hosoi,** Yoriko Matuyama, Shogo Murata, Toshiki Mushino, Takashi Sonoki: Prolonged Epstein-Barr virus reactivation coincident with chronic graft-versus-host disease after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation LEUKEMIA LYMPHOMA 2022 in press

Tadashi Okamura, **Hiroki Hosoi,** Takeshi Matsufusa, Yuina Akagi, Ryuta Iwamoto, Hideki Kosako, Shogo Murata, Toshiki Mushino, Shin-Ichi Murata,Takashi Sonoki:Tirabrutinib maintenance therapy for a patient with high-dose methotrexate-ineligible primary central nervous system lymphoma: Annals of Hematology 2022,in press

Shinobu Tamura, Yoshikazu Hori, Takayuki Hiroi, Masaya Morimoto, **Yusuke Yamashita**, Toshiki Mushino, Takashi Sonoki: Pegcetacoplan for refractory paroxysmal nocturnal haemoglobinuria associated with the C5 genetic variant: BRITISH JOURNAL OF HEMATOLOGY 2022;196(6):e57-e60.

### (3)　著書(単行本、シリーズもの含む)

蒸野寿紀:「発熱性好中球減少症(FN)～G-CSF は正しく使える？」、逃げない内科診療(羊土社)、284-287、2021

田村志宣:「オンコロジック・エマージェンシー～がんそのものと治療関連の 2 種類がある」、逃げない内科診療(羊土社)、288-292、2021

### (4)　受賞等

山下友佑：令和 3 年度和歌山県立医科大学若手研究奨励賞　受賞

### (5)　研究費、助成金

園木孝志：令和 3 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）「骨髄異形成症候群の造血障害・遺伝子変異クローン性拡大と NKG2D 免疫との関連」

田村志宣：令和 3 年度科学研究費助成事業 基盤研究(c)「免疫不全を基盤として発症する炎症性腸疾患の病態解明」

西川彰則：令和3年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業（厚生労働省）「非接触バイタルセンサーを含む包括的な在宅輸血患者の安全な見守りシステムの開発」

西川彰則：令和3年度特定研究助成（和歌山県立医科大学）「人工知能（AI）を利用したスマートグラス型医療安全システムの開発と臨床現場における有用性の検討」

西川彰則：令和3年度共同研究（ニプロ株式会社）「テレメトリー式心電送信機を用いた患者状態変化予測に資する前向き観察研究」

村田祥吾：2021年度日本血液学会研究助成「骨髄異形成症候群の病態形成におけるNKG2D免疫の解明」

蒸野寿紀：令和3年度科学研究費助成事業　若手研究「移植後後期腹水症の発症機序の解明および新規診断バイオマーカー開発」

細井裕樹：令和3年度科学研究費助成事業（若手研究）、「microRNAとスーパーエンハンサーに着目した悪性リンパ腫のPVT1の役割解明」

細井裕樹、園木孝志、他：令和3年度AMED 分担研究「急性骨髄性白血病に対する治験用がんペプチドワクチン「DSP-7888」のPhase2医師主導治験」

山下友佑：令和3年度科学研究費若手研究「CCDC22変異がもたらす免疫応答の変化とEBV-HLH発症・重症化との関連」

山下友佑：武田科学振興財団 2021年度医学系研究助成「DNAリガーゼⅣの機能低下に起因する自己免疫病態の解明」

## (6)　支援研究会（WEBセミナー）など

Lymphoma Seminar(エーザイ株式会社主催):「岐阜大学関連施設における末梢性T細胞リンパ腫診断の実態調査」、山口公大（岐阜大学医学部附属病院　血液・感染症内科）2021.4.2

Lymphoma Seminar(エーザイ株式会社主催):「再発・再燃濾胞性リンパ腫の三次治療後の予後に関する多施設共同後方的研究」、藤　重夫（大阪国際がんセンター　血液内科副部長）　2021.4.2

Hematology seminar in Wakayama 2021(大塚製薬株式会社主催):「最新のＰｈ+ALL治療戦略」、宮本敏弘（九州大学大学院医学研究院病態修復内科学　准教授）2021.4.23

Chugai Web Seminar（中外製薬株式会社主催):「DLBCLにおける網羅的遺伝子解析と分子分類の意義」、加留部謙之輔（琉球大学医学研究科　細胞病理学講座教授）2021.5.21

SymBio Hematology Seminar(シンバイオ製薬株式会社主催):「再発DLBCLの治療戦略」、松村　到(近畿大学医学部　血液・膠原病内科　主任教授)　2021.5.26

KYOセミナー2021（日本新薬株式会社主催):「急性骨髄性白血病の治療変遷と今度の新展開-アザシチジンの適応追加を受けて-」、臼杵憲祐（NTT東日本関東病院　血液内科　部長）2021.5.28

AstraZeneca Hematology Web Seminar（アストラゼネカ主催):「再発・難治性CLLに対する新しい選択肢～カルケンスの超最新の話題」、柴山浩彦（国立病院機構大阪医療センター　血液内科　科長）2021.6.16

多発性骨髄腫セミナーin和歌山（小野薬品工業株式会社主催):「多発性骨髄腫治療戦略におけるカルフィルゾミブの位置づけ」、上田真寿（自治医科大学　内科学講座　血液学部門　講師）2021.6.25

多発性骨髄腫セミナーin和歌山（小野薬品工業株式会社主催):「腫瘍随伴症候群としてADEMを併発したMGUSの1例」、岡　智子（日本赤十字社和歌山医療センター　血液内科　副部長）2021.6.25

アンビゾームライブ配信講演会(大日本住友製薬株式会社主催):「血液領域の侵襲性真菌感染症の診断・治療戦略～モニタリング・早期治療・標的治療を中心に～」、木村俊一（自治医科大学附属さいたま医療センター　血液内科　講師）2021.6.30

奈良・和歌山・南大阪Hematology Conference（ノバルティスファーマ株式会社主催):「当院におけるMPN診療」、柴野　賢（堺市立総合医療センター　血液疾患センター　センター長）2021.7.1

奈良・和歌山・南大阪Hematology Conference（ノバルティスファーマ株式会社主催):「CAR-T療法における医療連携」、田中宏和（近畿大学医学部　血液・膠原病内科　准教授）2021.7.1

奈良・和歌山・南大阪 Hematology Conference（ノバルティスファーマ株式会社主催):「当院におけるDLBCL治療」、大山泰世（和泉市立総合医療センター　血液内科）2021.7.1

奈良・和歌山・南大阪Hematology Conference（ノバルティスファーマ株式会社主催):「治療抵抗性DLBCLの一例」、田中晴之（奈良県立医科大学付属病院　呼吸器・血液内科）2021.7.1

和歌山血液学セミナー(協和発酵キリン株式会社主催):「NK細胞腫瘍の最新の病態と治療」、鈴木律朗(島根大学医学部内科学講座　血液・腫瘍内科学　教授）2021.7.9

オンライン勉強会:「多発性骨髄腫基本の基」、堀　善和(国立がん研究センター中央病院　血液腫瘍内科がん専門修練医）2021.7.13

**サークリサ ZOOM Webinar in WAKAYAMA** （サノフィ株式会社主催）:「多発性骨髄腫における連続的な治療戦略―RRMM に対する Isa+Pd 療法の役割―」、鈴木一史（東京慈恵会医科大学柏病院　腫瘍・血液内科　講師）2021.7.16

**SymBio Hematology WEB Seminar**（シンバイオ製薬株式会社主催）:「BR 治療が最適と思われる患者像～BR120 のポテンシャルを考える～」、木口　亨（獨協医科大学埼玉医療センター　糖尿病内分泌・血液内科　准教授）2021.7.20

**SymBio Hematology WEB Seminar**（シンバイオ製薬株式会社主催）:「PBR 治療が最適と思われる患者像～BR90 with ポライビーという選択～」、柴山浩彦（大阪医療センター　血液内科　科長）2021.7.20

**Osaka Lymphoma Web Seminar**（シンバイオ製薬株式会社主催）:「DLBCL に対する同種移植の役割と限界」、藤　重夫（大阪国際がんセンター　血液内科　副部長）2021.8.3

**Osaka Lymphoma Web Seminar**（シンバイオ製薬株式会社主催）:「DLBCL に対する CAR-T 細胞治療の現状」、吉原　哲（兵庫医科大学　血液内科　講師）2021.8.3

**Osaka Lymphoma Web Seminar**（シンバイオ製薬株式会社主催）:「再発 DLBCL の治療戦略」、松村　到（近畿大学医学部　血液・膠原病内科　主任教授）2021.8.3

**ポライビー発売記念講演会**（中外製薬株式会社主催）:「再発・難治性 DLBCL に対する新たな治療戦略」、柴山浩彦（大阪医療センター　血液内科　科長）2021.8.6

**葉月 PNH Web Seminar**（アレクシオンファーマ合同会社主催）:「骨髄不全症に伴う PNH の治療戦略」、森田泰慶（近畿大学医学部　血液・膠原病内科）2021.8.27

**SymBio Hematological WEB Seminar**（シンバイオ製薬株式会社主催）:「濾胞性リンパ腫の治療戦略」、山本一仁（愛知県がんセンター病院　血液・細胞療法部　部長）2021.9.6

**ベレキシブル Web セミナーin 和歌山**（小野薬品工業株式会社主催）:「CNS リンパ腫の治療～各治療の役割を理解する～」、近藤英生（川崎医科大学　血液内科　教授）2021.10.7

**BMS Hematological Web Seminar～多発性骨髄腫～**（ブリストル・マイヤーズスクイブ株式会社主催）:「再発・難治性多発性骨髄腫に対する最適治療：染色体・MRD 検査の臨床的意義」、髙松博幸（金沢大学付属病院　血液内科　講師）2021.11.8

**アイクルシグ発売 5 周年記念講演会 in Osaka**（大塚製薬株式会社主催）:「CML 治療の現状と今後」、松村到（近畿大学医学部　血液・膠原病内科　主任教授）2021.11.12

**アイクルシグ発売 5 周年記念講演会 in Osaka**（大塚製薬株式会社主催）:「ポナチニブ使用時のリスク管理」、伊藤量基（関西医科大学　内科学第一講座　血液腫瘍内科　病院教授）2021.11.12

**アイクルシグ発売 5 周年記念講演会 in Osaka**（大塚製薬株式会社主催）:「CML と妊婦について一緒に考えてみてください」、日野雅之（大阪市立大学大学院医学研究科　血液腫瘍制御学　教授）2021.11.12

**第 2 回 CLL Expert Seminar**（アストラゼネカ株式会社主催）:「ゲノム解析による胚細胞変異と体細胞変異の解明」、南谷泰仁（東京大学医科学研究所　造血病態制御学分野　教授）2021.11.16

**第 2 回 CLL Expert Seminar**（アストラゼネカ株式会社主催）:「アカラブルチニブを用いた再発・再燃 CLL に対する最新治療」、瀧澤　淳（新潟大学大学院医歯学総合研究所血液分野　准教授）、2021.11.16

第9回Cancer Stem Cell Symposium（協和キリン株式会社主催）:「再生不良性貧血における変異造血幹細胞によるエスケープ造血」、細川晃平（金沢大学付属病院　高密度無菌治療部　助教）2021.11.19

第9回Cancer Stem Cell Symposium（協和キリン株式会社主催）:「同種造血幹細胞移植後免疫反応による骨髄微小環境変容のダイナミクス」、淺田　騰（岡山大学病院　血液・腫瘍内科　助教）2021.11.19

Leukemia・Hematology Web Seminar in KANSAI（ファイザー株式会社主催）:「血液疾患の訪問診療及び在宅輸血」、赤坂浩司（医療法人　赤坂クリニック　院長）2021.11.25

Leukemia・Hematology Web Seminar in KANSAI（ファイザー株式会社主催）:「初発CML治療におけるボシュリフの役割」、花本　仁（近畿大学奈良病院　血液内科　教授）2021.11.25

Hematology Clinical Experts Seminar（ノバルティスファーマ株式会社主催）:「新しい治療目的としてのTFR」、髙橋直人（秋田大学大学院医学系研究科血液・腎臓・膠原病内科学講座）2021.12.14

Symbio DLBCL Web Seminar（シンバイオ製薬株式会社主催）:「再発・難治DLBCLに対する治療戦略」、山本和彦（岡山市立市民病院　血液内科　主任部長）2021.12.2

Symbio DLBCL Web Seminar（シンバイオ製薬株式会社主催）:「CART時代のベンダムスチンの位置づけ」、後藤秀樹（北海道大学病院　血液内科　診療講師）2021.12.2

Hematology Clinical Expert Seminar（ノバルティスファーマ株式会社主催）:「新しい治療目的としてのTFR」、髙橋直人（秋田大学大学院医学系研究科　血液・腎臓・膠原病内科学講座）2021.12.14

Hematology Clinical Expert Seminar（ノバルティスファーマ株式会社主催）:「多剤に不耐容であったがニロチニブの少量長期投与が奏効した高齢者の CML の一例」、山根裕介（松下記念病院　血液内科）2021.12.14

ポマリスト4夜連日Web講演会-DPd臨床成績を含めて-Day3（ブリストル・マイヤーズスクイブ株式会社主催）:「再発・難治性多発性骨髄腫の治療戦略」、李　政樹（名古屋市立大学病院輸血・細胞療法部/血液内科　講師、ゲノム医療部副部長）2021.12.22

ポマリスト4夜連日Web講演会-DPd臨床成績を含めて-Day3（ブリストル・マイヤーズスクイブ株式会社主催）:「病態から考えるDPd療法の作用機序と臨床的意義」、今井陽一（東京大学医科学研究所附属病院　血液腫瘍内科　准教授）2021.12.22

第20回和歌山造血細胞療法研究会（アステラス製薬株式会社共催）:「がん患者さんの治療と仕事の両立支援～ソーシャルワーカーの立場から～」、松本友香（和歌山労災病院　患者支援サポートセンター医療ソーシャルワーカー）2022.2.19　ホテルグランヴィア和歌山（ハイブリッド開催）

第 20 回和歌山造血細胞療法研究会（アステラス製薬株式会社共催）:「コロナ禍の白血病診療」、豊嶋崇徳（北海道大学大学院医学研究院　血液内科学教室　教授）2022.2019　ホテルグランヴィア和歌山（ハイブリッド開催）

SYMPLE For HCPs（シンバイオ製薬株式会社主催）:「Onco-Cardiologyとはどんなものか」、楠瀬賢也（徳島大学病院　循環器内科　講師）2022.2.5

SYMPLE For HCPs（シンバイオ製薬株式会社主催）:「Onco-Cardiology領域における薬剤部としての取り組み」、吉岡秀哲（公益財団法人がん研究会有明病院　薬剤部/院内感染対策部）2022.2.25

SYMPLE For HCPs（シンバイオ製薬株式会社主催）:「腫瘍循環器学-がん患者の予後と QOL の改善を目指す新しい学問-」、矢野真吾（東京慈恵会医科大学　腫瘍・血液内科　教授）2022.2.25

JanssenPro Web Seminar cGVHD における Ibrutinib の臨床応用を考える（ヤンセンファーマ株式会社主催）2022.2.28

使用経験から捉え直すポナチニブの使い方（大塚製薬株式会社主催）:「Ph+ALL に対するポナチニブを用いた治療とその位置づけ」、佐竹敦志（関西医科大学内科学第一講座　血液腫瘍内科　講師）2022.3.9

Pfizer Hematology Forum 2022（ファイザー株式会社主催）:「新規慢性骨髄性白血病に対する新しい治療選択肢」、髙橋直人（秋田大学大学院医学系研究科　血液・腎臓・膠原病内科学講座　教授）2022.3.17

BMS MYELOMA FORUM（ブリストル・マイヤーズスクイブ株式会社主催）:「再発・難治性多発性骨髄腫の治療戦略」、今井陽一（東京大学医科学研究所附属病院　血液腫瘍内科　准教授）2022.3.18

## 5　診療実績

| | | | |
|---|---|---|---|
| （1） | 入院 | 患者総（のべ）数（一時退院後を含む） | 415 名 |
| | 退院 | 患者総（のべ）数（一時退院を含む） | 428 名 |
| （2） | 外来 | 患者総（のべ）数 | 9449 名 |
| | | 新規患者数（病院集計） | 257 名 |

入院患者疾病別分類（入院のみ，重複あり,疑い症例を含む）

| | | のべ入院数 | 新規入院数 |
|---|---|---|---|
| 1） | 白血病 | 92 | 35 |
| | 急性骨髄性 | | |
| | M1 | 1 | 1 |
| | M2 | 5 | 3 |
| | M3 | 7 | 4 |
| | M4 | 1 | 1 |
| | M5 | 8 | 3 |
| | M7 | 1 | 0 |
| | AML－MRC | 22 | 3 |
| | t-AML | 2 | 1 |
| | CMML | 1 | 1 |
| | HCL | 2 | 1 |
| | 急性リンパ性(ALL) | 29 | 8 |
| | 慢性リンパ性(CLL) | 2 | 2 |
| | 慢性骨髄性白血病(CML) | 7 | 5 |
| 2） | 骨髄異形成症候群（MDS） | 22 | 13 |
| 3） | 多発性骨髄腫（MM） | 51 | 21 |
| 4） | リンパ性腫瘍 | 223 | 91 |
| | DLBCL | 102 | 43 |
| | FL | 25 | 13 |
| | HL | 18 | 5 |
| | PCNSL | 10 | 5 |
| | ATLL | 10 | 5 |
| | AITL | 10 | 3 |
| | MCL | 9 | 1 |
| | MALT | 8 | 2 |
| | PBL | 8 | 2 |
| | BCL | 7 | 4 |
| | PTCL | 5 | 1 |

| | | のべ人数 | 新規入院数 |
|---|---|---|---|
| | MTX-LPD | 3 | 2 |
| | バーキットリンパ腫 | 1 | 1 |
| | NK/T 細胞リンパ腫 | 1 | 1 |
| | MEITL | 1 | 1 |
| | DHL | 1 | 0 |
| | PEL-LL | 1 | 0 |
| | 悪性リンパ腫疑い | 3 | 0 |
| ５） | 血球減少症（造血不全含む） | 2 | 2 |
| | 再生不良性貧血（AA） | 7 | 5 |
| | 発作性夜間ヘモグロビン尿症(PNH) | 1 | 1 |
| | 汎血球減少症 | 1 | 1 |
| | ITP | 14 | 10 |
| | TTP | 2 | 2 |
| ６） | 溶血疾患 | | |
| | 自己免疫性溶血性貧血（AIHA） | 5 | 3 |
| ７） | その他 | | |
| | 造血幹細胞移植ドナー入院 | 10 | 10 |
| | 骨髄線維症(MF) | 4 | 3 |
| | 好酸球増多症(HPS) | 1 | 1 |
| | 原発マクログロブリン血症（WM） | 1 | 0 |
| | 原発性アミロイドーシス | 2 | 2 |
| | 形質細胞様樹状細胞腫瘍 | 2 | 0 |
| | 巨大脾腫 | 2 | 1 |
| | HIV | 1 | 1 |
| | POEMS 症候群 | 1 | 0 |
| | TAFRO 症候群 | 1 | 1 |
| | リンパ節腫脹 | 2 | 2 |
| | 後天性血友病 A | 1 | 1 |
| | カリニ肺炎 | 1 | 0 |
| | 胸部大動脈瘤破裂 | 1 | 0 |
| | 菌血症・感染性心膜炎 | 1 | 1 |
| | 肝障害 | 1 | 1 |
| | 敗血性ショック | 1 | 1 |
| | 肺血栓塞栓症 | 1 | 0 |
| | 血球貪食症候群 | 1 | 1 |
| | 重症薬疹 | 1 | 1 |
| | 胆嚢炎 | 1 | 0 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 胆管がん | 1 | 0 |
| | 赤芽球ろう | 1 | 1 |
| | 不明熱 | 1 | 0 |
| （３） | 造血幹細胞移植(2021.1 月～12 月) | | |
| | 自家移植 | 5 | |
| | 血縁 | 3 | |
| | 非血縁 | 19 | |
| （４） | 死亡 | 18 | |
| （５） | 剖検(率) | 3 | (16%) |

外来新規患者の疾患名と患者数(疑い症例を含む)　2021 年 4 月～2022 年 3 月

| | | |
|---|---|---|
| １） | 白血病 | |
| | M2 | 2 |
| | APL | 2 |
| | M4 | 1 |
| | AML-MRC | 2 |
| | t-AML | 1 |
| | AML 分類不明 | 2 |
| | 急性リンパ性白血病(ALL) | 3 |
| | 慢性骨髄性白血病(CML) | 9 |
| | 慢性リンパ性白血病(CLL) | 3 |
| | 慢性好酸球性白血病 | 2 |
| ２） | 骨髄異形成症候群（MDS） | 30 |
| | MDS 疑い | 1 |
| ３） | 多発性骨髄腫（MM） | 17 |
| | MM 疑い | 1 |
| ４） | リンパ性腫瘍 | |
| | DLBCL | 36 |
| | FL | 19 |
| | HL | 11 |
| | ATLL | 5 |
| | MALT | 4 |
| | 眼瞼 MALT リンパ腫 | 1 |
| | 右肺 MALT リンパ腫 | 1 |
| | 胃限局 MALT リンパ腫 | 1 |
| | PCL | 1 |
| | PCNSL | 3 |
| | BCL | 7 |
| | PBL | 2 |

| | | |
|---|---|---|
| | MCL | 1 |
| | ALCL | 1 |
| | AITL | 1 |
| | BL | 1 |
| | SPTCL | 1 |
| | MTX-LPD | 5 |
| | NK/T リンパ腫 | 1 |
| | 肺原発マルトリンパ腫 | 1 |
| | 低悪性度 B 細胞性リンパ腫 | 2 |
| | T 細胞性リンパ腫 | 1 |
| | 悪性リンパ腫（疑い） | 21 |
| ５） | 血小板減少症 | 9 |
| | ITP | 20 |
| | ITP 疑い | 3 |
| | 薬剤性血小板減少症 | 5 |
| | 一過性血小板減少症 | 5 |
| | 偽性血小板減少症 | 7 |
| | 二次性血小板減少症 | 8 |
| | 骨髄線維症 | 1 |
| ６） | 貧血 | 6 |
| | 鉄欠乏性貧血 | 17 |
| | 正球性貧血 | 12 |
| | 大球性貧血 | 8 |
| | 溶血性貧血 | 5 |
| | 巨赤芽球性貧血 | 5 |
| | 再生不良性貧血 | 4 |
| | 腎性貧血 | 3 |
| | 薬剤性貧血 | 1 |
| | 小球性貧血 | 1 |
| ７） | 多血症 | 8 |
| | 二次性多血症 | 5 |
| | 真性多血症 | 4 |
| ８） | 好酸球増多症(HPS) | 6 |
| | 二次性好酸球増多症 | 1 |
| | 薬剤性赤血球増多症 | 1 |
| | 二次性赤血球増加症 | 1 |
| | 真性赤血球増多症 | 1 |
| ９） | その他 | |

| | |
|---|---|
| HIV 感染症 | 5 |
| 汎血球減少症 | 3 |
| 二次性汎血球減少症 | 2 |
| 薬剤性汎血球減少症 | 1 |
| 白血球減少症 | 9 |
| 薬剤性白血球減少 | 1 |
| 二次性白血球減少症 | 1 |
| 白血球増加症 | 3 |
| 反応性白血球増多症 | 1 |
| 白血球高値 | 4 |
| 薬剤性白血球増多症 | 2 |
| 遺伝性球状赤血球症 | 1 |
| 二次性血球増加 | 1 |
| 二次性血球減少 | 2 |
| 薬剤性好中球減少症 | 1 |
| 好中球増加症 | 2 |
| 好中球減少症 | 4 |
| 血管内溶血 | 1 |
| 伝染性単核球症 | 4 |
| 本態性血小板血症（ET） | 8 |
| 本態性血小板血症（ET）疑い | 1 |
| 一過性血小板上昇 | 1 |
| 反応性血小板増多 | 5 |
| 赤芽球癆 | 1 |
| 骨髄繊維症（MF） | 1 |
| 骨髄繊維症（MF）疑い | 1 |
| 血栓症 | 2 |
| 菌血症 | 1 |
| DIC | 1 |
| 単クローン性免疫マクログロブリン血症（MGUS） | 8 |
| PV | 1 |
| 免疫グロブリン上昇 | 2 |
| 高 LDH 血症 | 1 |
| HTLV-1 | 2 |
| HTLV-1 疑い | 2 |
| EB ウイルス感染症 | 1 |
| sIL-2R 高値 | 3 |
| アミロイドーシス | 3 |

| | |
|---|---|
| サルコイドーシス疑い | 2 |
| 老人性紫斑 | 1 |
| サラセミア | 4 |
| 寒冷凝集素症 | 2 |
| MIS | 1 |
| 末梢血芽球 | 1 |
| リンパ節腫大 | 4 |
| リンパ節腫脹 | 5 |
| 腹腔内リンパ節腫脹 | 2 |
| 鼠径リンパ節腫大 | 2 |
| 頸部リンパ節腫大 | 3 |
| 縦隔小リンパ節 | 1 |
| 反応性リンパ節腫大 | 7 |
| 縦隔リンパ節腫大 | 2 |
| 亜急性壊死性リンパ節炎 | 1 |
| MTX 関連リンパ増殖性疾患 | 1 |
| リンパ節炎 | 1 |
| 胃小弯側リンパ節腫大 | 1 |
| 腹部リンパ腫 | 1 |
| 腹腔内腫瘍 | 1 |
| 右上葉肺がん | 1 |
| 縦隔肺がん疑い | 1 |
| 消化器癌疑い | 1 |
| 後縦隔腫瘤 | 1 |
| 精巣腫瘍 | 1 |
| 胚細胞腫瘍 | 1 |
| 膀胱腫瘍 | 1 |
| 多発血管炎性肉芽腫症 | 1 |
| 原発不明癌 | 1 |
| LCH 再発 | 1 |
| シェーグレン症候群 | 1 |
| 成人スチル病 | 1 |
| 第Ⅴ因子欠乏症 | 1 |
| M タンパク血症 | 2 |
| 高 LDH 血症 | 1 |
| 高グロブリン血症 | 1 |
| 高カルシウム血症 | 1 |
| 高ビリルビン血症 | 1 |

| | |
|---|---|
| 肺動脈血栓塞栓症 | 1 |
| 上腸間膜静脈血栓症 | 1 |
| 血液凝固異常 | 2 |
| アンチトロンビン低値 | 1 |
| 特発性眼窩炎症 | 1 |
| IgG 関連疾患 | 4 |
| WBC　PLT 低下 | 1 |
| PS 欠損症Ⅱ型 | 1 |
| 一過性のウイルス感染 | 1 |
| 第Ⅷ因子活性 | 1 |
| 重症薬疹 | 1 |
| 膿胸 | 1 |
| COVID-19 肺炎治療後フォロー | 1 |
| 不明熱 | 1 |

# 6　リーダーレポート

## 今年度の総括

輸血部/医療情報部　西川彰則

コロナ禍において人との接触の形態が変化し、医療においても診療の形態が大きく変化しました。情報通信技術の発達のお陰で、オンライン診療のインフラが整い、診療報酬においてもオンライン診療が考慮されるようになりました。蒸野先生を中心に当院が以前から取り組んで遠隔 LTFU についても、時代が追いつき現在、脚光を浴びています。我々地方大学の血液内科の強みは何かと考えたときに、やはり医療機関へのアクセスが悪い地域という状況や、過疎地での医療を如何に充実させるかといった課題に直面していて、それに対する工夫や取り組みが一つの柱になると考えます。今後過疎化が進む日本の医療の未来の課題にいち早く取り組んでいるとも言えます。まさに、専門医療もしくは専門医療の質を遠隔地の患者さんに負担なく届ける方法としてオンライン診療や医療情報連携システム（青洲リンク）を活用した病診連携が普通に行われる時代がやってきています。

今年度は、医療情報部長を拝命して 2 年目でしたが、令和 5 年 1 月切り替えを予定する第 5 期医療情報システムの更新作業に向けて、中央部門、診療科、事務方含め多くの方からヒアリングさせて頂きました。医療安全にかかわる課題や情報セキュリティの問題は尽きることなく、仕事は満載ですがなんとかやりがいをもって今年度を終えることができました。診療面においては、なかなか十分コミットできておりませんでしたが、若手の先生方の成長著しく大変お世話になったことをここで御礼申し上げます。

私個人としては、新たな仕事としてバイオメディカルサイエンスサイエンスセンターのバイオバンクの立ち上げ運営に携わることとなり、院内の仕事が広がりました。また、研究面では、和歌山県のアフターコロナ事業にて、病院内の 3 密を防ぐ目的にスマートグラス型電子カルテ参照システムを構築することができました。まだまだ不十分なところがありますが、病棟の先生方の協力のお陰で製品化に向けて改良をしていく予定です。在宅診療の研究では、ミリ波レーダーを使った非接触型の患者さんの呼吸検知システムの実証も行うことができました。また AI を使ったスマートグラス型医療安全システムについても和歌山大学と共同で進めることができました。どんどん診療から離れていっている気もしますが、オリジナリティをもって未来の医療につながることを期待して来年度も進めていきたいと考えています。

以上とりとめのない雑駁な内容ですが今年度の総括としたいと思います。

医局員の皆様には、あきれずに引き続きお付き合いいただけると幸いです。

# 青天の霹靂、そして医局長へ

講師・医局長・病棟医長　村田 祥吾

毎年頭を悩まされるリーダーレポートも今回で7回目の報告になるが、年々書く内容に困るようになってきた。責任ある立場になり、安易に自分の思うことを勝手きままに書くわけにはいかなくなったのもその理由の一つである。2021年は本厄年であり、身の回りに起きる悪い出来事をそのせいにして、やや悲観的に過ごしてきたようにも感じる。2021年もCOVID-19に翻弄され、2022年にはロシアのウクライナ侵攻が始まり、世界的にも悲しいニュースの多い一年であった。それでも一年延期の後に開催された東京オリンピックは明るい話題を提供してくれた。

血液内科における今年度の大きな出来事は、長年医局長を務めていただいた田村准教授が10月から救急部へ異動されたことであろう。青天の霹靂とはまさにこのことであり、後を引き継ぐ形で医局長の役職に就くことになった。正直、気が重く、できることなら回避したい職務であったが、学年の順番や他部門との兼務がないことを考慮すると、私が就くことは致し方ないことだと腹をくくった。病棟医長を務めていたため、医局員の顔色を常日頃から伺いながら（言い方は不適切であるのかもしれないが)、患者を割り当て、各チームがスムーズに仕事ができるように私なりに配慮はしてきたつもりである。それだけでも骨の折れる業務であったが、さらに、関連病院を含めた医局員全員に目を向ける必要がある医局長の職務も加わった。半年間で大した仕事はできていないが、医局員全員と面談し、これまで見えていなかった若い先生の希望や目標、また、悩みなども知ることができた。医局員が増えることは大変ありがたいことであり、大きな財産であるが、多様性が増すことで問題が増えてしまうことも事実である。歴史小説を読む際には、相対する両者について、それぞれの視点で書かれた小説を読んだうえで、善悪を判断する必要があると教わったことがある。幕末を舞台にした小説を読む際には特に注意を要する。医局員の声を聴く際にもそれは非常に重要なことであると感じている。何が正しく、何が間違っているのか、そんなことはそもそも話し方や受け取り方一つで大きく変わってしまう。人の話に耳を傾けるのは本当に難しいものだ。

今年は天野先生、太根先生の2名が入局を決めてくれた。7年連続で複数名の入局者を確保できるまでに安定した医局になった。また、武田先生が昨年10月に無事出産され、7月から仕事復帰を予定されている。武田先生に血液内科でのモデルケースとなってもらうべく、女性医師にとって仕事と育児の両立がしやすい医局作りを進めていかなければならないと感じている。来年度は3人の女性医師が主治医として活躍してくれる予定である。一昔前の男ばかりのむさ苦しい病棟の様子からは想像できない程の華やかさである。この流れは今後も続けていかなければならない。

来年度はそろそろ医局や病棟全体での歓迎会や忘年会を再開したいものだが、現状はなかなか厳しい様子である。このままでは若い看護師さんと上手く話せないおじさんになってしまいそうで心配である。それでも「嵐」とは同世代である。「だから何なん？」と妻によく突っ込まれる。「昔は若かったな...」と妻の顔を見つめながら言い返すのだ。

年報に寄せて～2021年度を振り返る～

講師（地域医療支援センター）　蒸野　寿紀

2021年4月より卒後臨床研修センター副センター長が兼務となりました。卒後臨床研修センターの初期研修医は1年目・2年目合わせ約100人の大所帯で、5人いる副センター長の1人として、面談等の業務を行っています。また、7月より地域医療支援センター副センター長に就任し、地域医療枠・県民医療枠学生、卒業生のキャリア形成支援に取り組んでいます。夏季実習の遂行、各種セミナーの企画・運営、キャリア形成面談など、地域枠に関する幅広い支援業務を行っています。それに伴い、血液内科の業務は少し軽くして頂いていますが、三足のわらじを履くような状態で、忙しく過ごした1年でした。

初期研修医は峠先生、小山先生が血液内科をローテートしてくれました。峠先生がローテートした4月から6月は紀北分院でのコロナ対応のため田村先生が不在であり、代診などで時間的な余裕がなく、あまり教えられなくて申し訳なく思っていますが、一生懸命研修されました。また、小山先生は1月から2月までローテートされましたが、とても熱心な先生でした。

後期研修医は榊先生、吉田先生が同じチームに入られました。この1年間は私自身がかなり忙しく、病棟業務はほぼお任せの状態で申し訳なかったですが、優秀なお二人に助けて頂きました。来年度榊先生は海南医療センターへ、吉田先生はがん研有明病院へ異動されますが、それぞれさらなる活躍を期待しています。田畑先生にはポリクリセミナーの骨髄生検シミュレーションを手伝ってもらいました。

また、松山先生には毎週月曜日に外来を手伝って頂きました。最初は一緒に方針を考えていましたが、時間の経過とともに成長され、安心して任せられるようになりました。後半は橋本市民病院でのコロナ対応のため研修が中断となりましたが、再開できる日を心待ちにしています。

紀南病院には谷河先生が毎週金曜日に来てくれました。午前中は超音波検査、午後は新患・再診外来を担当して頂きました。新患の精査の方針など、多くのことを自分で決められるようになっており、信頼できます。今は地域医療枠の派遣で地域医療に従事していますが、大学に帰ってくる2年間で立派な血液内科医として成長されると思います。3月の日本内科学会近畿地方会では後天性von Willebrand症候群の発表で若手奨励賞後期研修医の部で優秀賞を受賞されるなど、今後のますますの活躍が期待されます。

個人として来年度は、遠隔 LTFU 外来の評価と移植後後期腹水症の科研費課題の仕上げに取り組みたいと思っています。遠隔 LTFU 外来については、3 月に神戸大学・兵庫医科大学主催の造血幹細胞移植拠点病院事業の勉強会で発表する機会を与えて頂きました。遠隔 LTFU 外来はコロナ禍前に始めた取り組みですが、コロナ禍でオンライン診療が発展し、注目されるようになりました。外来看護師の高木さんは 5 月の日本造血・免疫細胞療法学会総会での看護ワークショップで登壇を予定しており、このシステムを広めるきっかけにしたいと思います。また多くの先生方にご指導頂きながら、国内のニーズを把握するため、全国アンケートを行う予定です。JCOG 試験も登録可能な試験の増加が予想され、国立がん研究センターから帰ってくる堀先生にも手伝って頂きながら、引き続き関与していきたいと思います。　赤血球製剤・自己血使用ガイドライン作成にあたっては、園木先生が次期委員長を務められるので、微力ながら貢献していきたいと考えています。本厄の 1 年間、健康にも気をつけたいと思います。

## 2021 年度を振り返って

講師　細井裕樹

2021 年度も新型コロナウイルス感染症が大きく生活に影響した一年でした。今までも新興感染症が猛威を振るうことはありましたが、ウイルス感染症によって全世界的に経済活動等の制限を長期間わたって受けることになるとは数年前まで想像していませんでした。東京オリンピックも無観客で行われました。2019 年にオリンピックのチケットを購入した際には、ウイルス感染症の影響でオリンピックを観戦できないということは想定外でした。テレビ観戦でも十分に感動を味わえましたが、やはり現地観戦に勝るものはありません。同様に学会開催も大幅に制限され、オンラインでの発表が大半を占めました。移動時間が不要で気軽に参加できるという利点もありますが、現地で発表する緊張感、現地での顔を合わせての議論、また何より他の医療機関も苦労や工夫をしながら治療が難しい患者さんの診療にあたっているという実感を得られにくいというのは大きな欠点だと思います。新型コロナウイルス感染症が完全に収束するのはしばらく難しそうですが、適切な感染管理方法が確立され、また治療薬の進歩によって新型コロナウイルス感染症の影響が少ない生活が早く送れるようになることを願っています。

病棟業務では今年度は岡村先生、榊先生、小浴先生と診療にあたりました。大変勉強熱心で、新しい治療法やエビデンスなどについては私自身も学ぶことが多かったです。後輩の研修医に対する指導も熱心で、新型コロナの影響で歓迎会や送別会は十分にはできませんでしたが、ローテートしてくれた研修医は研修に満足してくれているのではないかと思っています。今年度の大きな出来事として田村先生が救急部に異動になったことがあげられます。今まで臨床、教育、研究の全てにおいて中心的な活躍をしていた先生が身近にいらっしゃらなくなり、医局だけでなく病棟でも寂しい感じがします。

外来業務としては、2019 年度途中まで蒸野先生が外来医長として外来移転後のシステムや移植後長期フォローアップ外来（LTFU）方法の構築してくれていましたので、軌道に乗っているという感じです。外来会議も定着してきました。外来会議で相談しながら作成していた種々の疾患説明パンフレットも完成してきました。これら外来診療については、看護師の高木さんはじめ外来担当看護師さん、コーディネーターの上田さん、クラークの濱口さんの力があってだと思っています。

教育面では本年度も 4 年生の講義は Web 形式になりました。学生にとっては Web 形式の授業が日常になりつつあるのかもしれませんが、学生の反応をみることができなくて授業をする側としては少し寂しくも思います。今年度も選択ポリクリの血球形態セミナーを担当しましたが、とても熱心に取り組んでくれました。

研究に関しては、基礎研究については悪性リンパ腫発症における *PVT1* の役割に焦点をあてて行っておりますが、なかなか思うように進まず苦労しております。来年度は何らかのデータをまとめられるようにしたいと思っています。

2021 年度を振り返って

助教　　山下友佑

2021 年 4 月より助教に昇格させていただき、3 年ぶりに年報を書かせていただくこととなりました。2021 年度は、私自身にとって卒後 10 年目の年でした。2021 年 4 月には、日本内科学会認定指導医に加えて、日本血液学会認定指導医を取得することができました。少しずつですが自分の診療に自信を持てるようになり、楽しく診療させてもらっていますが、指導医としての責任も感じています。以下に 2021 年度の振り返りを書きたいと思います。

臨床については、2021 年 4 月から病棟 D チームのリーダーとなり、栩野先生と一緒に診療しました。栩野先生の熱心な診療姿勢には私自身も良い刺激をもらいました。栩野先生の成長は目覚ましく、今や血液診療はほぼ自立し、他のチームの手助けもできるほどになり、嬉しく思います。毎週水曜日は、那賀病院血液内科の外来をしています。那賀病院血液内科の外来は 2017 年 4 月に立ち上げ、年を重ねるごとに患者さんが増えています。これまで医大や日赤に通っていた患者さんが地元で血液診療を受けられるようになり、感謝されています。現在は、常勤の赤木先生の頑張りで何とか持ちこたえている状況ですが、また古家先生が那賀病院に異動し、診療科も血液内科として独立する予定ですので、那賀病院血液内科も益々発展していくものと思います。診療全般では、今年度もコロナ禍の影響が大きく、余分な業務が増えています。私たち医療スタッフも大変ですが、病棟の面会制限など、患者さんへの負担も大きく、早く COVID-19 が収束してくれるのを願うばかりです。

研究については、ER ストレス機構に着目した多発性骨髄腫の病態解明、新規治療薬の開発についての研究、Lig4 変異マウスを用いた原発性免疫不全症に随伴する自己免疫病態の研究や、私が診療した患者さんから同定した新規 CCDC22 遺伝子変異の機能解析などの研究を進めています。医局の先生方、共同研究先の先生方のサポートのおかげもあり、今年度は、少しずつ私の研究成果が評価されるようになってきました。武田科学振興財団より 2021 年度医学系研究助成の受賞や、令和 3 年度和歌山県立医科大学若手研究奨励賞の受賞に加えて、令和 4 度科研費も「ABL-IRE1α 経路に着目した多発性骨髄腫の UPR 制御機構解明と新規治療薬開発」という研究課題名で内定をもらうことができました。科研費は 2 度目の採択で、継続して頂けることになりましたので、引き続き上記研究を発展させていきたいと思っています。今年度は私の大学院指導教官であった田村先生の救急科への異動があり、私の研究環境は大きく変わってしまいましたが、この逆境にめげずに、研究活動を続けていけたらと思っています。また、小浴先生、田畑先生が大学院に進学してくれていますので、自分が指導してもらった研究のノウハウを少しでも後輩に伝えていけたらと思っています。2021 年度は、なかなか論文の執筆が進まず、基礎研究の論文も症例報告の論文も書きかけの論文がいくつもたまっていますので、今年度はそれらの仕事を報告して、医学・科学の進歩に少しでも貢献できたらと思います。

# 2021年度を振り返って

輸血部　主任　松浪美佐子

2020 年度に続き、2021 年度もコロナ禍の 1 年となりました。4 月には私たちコメディカルにもコロナワクチンの接種が始まり（その頃は 3 回も接種するとは思っていませんでした）ました。7 月には緊急事態宣言下での東京オリンピックがあり、急性リンパ性白血病と診断された池江璃花子選手が治療を受け、日本代表として出場することや、スケートボードという種目で金メダルを獲得した四十住さくら選手が和歌山県出身だと知り、毎日ニュースを見るのが楽しみでした。オミクロン株という単語を覚えたと思ったら急速に拡大し、2 月には和歌山でははじめての蔓延防止重点措置が適用されました。学会・研修会はほぼオンラインで実施され、多人数での食事会や歓送迎会が行われないような生活にもずいぶん慣れてきました。和歌山県で連日 100 人を超える新規感染者数にもあまり驚かなくなり、テレビで流れるウクライナ侵攻の悲惨な映像に悲しい気持ちになったりします。

そんな 2021 年度でしたが、先日血液製剤の統計をとっていると、廃棄製剤の金額が 2020 年度 163 万円→2021 年度 46 万円と大きく減少していることに驚きました！献血による血液製剤は人々の善意で集められたものであり、輸血部では在庫の増大による有効期限切れや、不適切な保管管理による廃棄を防ぐために日々努力しています。2021 年度は血小板製剤（1 本 8 万円程度）の廃棄がとても少なかったのですが、製剤が届いているのに出庫がかからない場合は担当医に問い合わせたり、医学部の実習時には製剤の貴重性について説明をしたり、また血液内科の先生にも他科で使わなくなった血小板の使用を協力して頂いた結果、このような結果になったのだと思います。

輸血療法委員会では、FFP の使用削減のために、血漿交換時の症例について検討や、使用量の多い診療科へ適切な使用を呼びかけています。適正使用加算取得のための基準値が厳しくなかなかクリアできませんが、昨年度も園木教授にはたくさんのアドバイスやご協力を頂き、本当に感謝しております。

そして、輸血部の業務の一つとして細胞調整業務がありますが、末梢血幹細胞、骨髄液、テムセル、顆粒球、DLI など経験を重ねて安全で確実に実施できるようになってきました。今後 CAR-T 細胞療法も導入される予定があり、園木先生はじめ血液内科の先生方に指導して頂きながら、自己研鑽を積み輸血部としてチーム医療に参加していきたいと思っています。

# 2021 年度を振り返って

5 階西病棟　向　友代

2020 年から生活をガラリと変えた新型コロナウイルス。普段の生活や医療の現場においても、「当たり前」が「当たり前」でなくなりました。with コロナに舵を切った 2021 年、このような時期に長期入院する患者家族をサポートできるよう看護スタッフ一同取り組みました。患者の利益と感染リスクという難しい判断が必要でしたが、先生方と相談しながら可能な範囲、方法で試行錯誤しつつ、患者家族のつながり持っていただくことができました。

前任の師長から病棟運営を引継ぎ 2 年目となり、今年度は『チームとしての実践力を高め、患者に寄り添い気配りと先取りの看護ができる』ことを目標に看護スタッフとともに取り組みました。ベッドサイドケアの充実を目的とし、1 分でも早くベッドサイドへ向かうために申し送り時間を短縮しました。患者の高齢化や疾患の影響により、認知機能が低下している方も加療しますが、家族との電話面会の機会を積極的にもち、せん妄予防に取り組むことで、昨年度より身体抑制率、抑制期間を大幅に減少することができました。移植後の粘膜障害で食事摂取が困難になる患者の口腔ケアについて、口腔 OAG アセスメントと口腔ケアの徹底を図り、粘膜障害を減少、鎮痛のための麻薬使用を減少することができました。また、「造血幹細胞移植看護における看護師のクリニカルラダーVer.3」を活用した教育体制を整備し、多様な疾患に対応できる看護師の育成に取り組みました。さらに、オンライン研修を活用し、HIV、LTFU 資格の取得に向けて、人材育成に取り組むことができました。また、先生方には年間を通じて移植治療の学習会を開催していただき、知識を深めることができました。

昨年のリーダーレポートでは、華岡青洲の言葉「みんなで見る夢は一味違う」をモットーに、5 階西病棟もそのような病棟にしていきたいという抱負を掲げ、スタッフが安心して看護をおこなうことができるよう取り組みました。

この度、3 月末でお世話になった 5 階西病棟を離れることになりました。副看護師長のとして配属されて 3 年、あっという間でしたが、園木先生、諸先生方や看護スタッフに助けていただき病棟運営をおこなうことができましたこと、心より感謝申し上げます。

～2021 年度を振り返って～

薬剤部　三浦愛実

この 1 年を振り返ってみると、昨年度に引き続きコロナ環境に悩まされる日々でした。納涼会や忘年会など大勢で集まる機会もなく、私生活においても制限されることが多くなり、今まで当たり前と思っていた日常に有難みを感じさせられます。また、コロナウイルス感染拡大に伴い次々と治療薬が承認され、常に最新の情報を取り入れることが求められている状況でもあります。

今年度は LTFU 外来で介入する機会がありました。当院では約 95％の院外処方率を占めており、ほとんどの患者さんが調剤薬局で薬をもらうため、病院薬剤師が退院後も引き続き介入することは困難な状況です。その中で、少しでも服薬アドヒアランス向上に寄与できればという気持ちで外来のスタッフさん協力のもと、患者さんと接する機会を設けていただきました。今後は薬局薬剤師と連携したサポートが出来るように、退院後サマリーやトレーシングレポートを有効活用していきたいと考えています。

毎年、薬剤の破損廃棄金額が発生する中、臨時購入医薬品は特定の患者さん使用のため、期限切れにより廃棄の対象となることが多い状況です。血液内科の先生方には期限切迫薬剤の使用に協力いただき感謝しております。また、2 月には薬剤部に新規の注射薬アンプルピッカーが導入されました。看護師長さんを含め看護スタッフの方々にはカートの置き位置の検討や、搬送方法が変更となることでご迷惑をおかけすることもありましたが、皆様の協力もあり 3 月より本格的に運用開始することが出来ました。

今年度も 5 西病棟を担当させていただき、先生や看護師さんなどスタッフの方々が患者さんと真摯に向き合う姿をみて、刺激が多い日々でした。今思い返してみると、1 年 9 か月前に 5 西担当と決まった当初は自分で務まるのかと不安な気持ちでいっぱいでしたが、質の高い医療を提供されている中で業務に携われたことは貴重な経験であり私自身、更に成長することができました。自身の都合により 6 月末までの担当となりますが残り 3 か月間、少しでも病棟業務に貢献できるように努めてまいりますので、よろしくお願い致します。

## 7　寄稿文

当科における２０２１年度を振り返って

和歌山ろうさい病院　血液内科　阪口　臨

当院は、災害拠点病院という性格上、2011 年 3 月の東日本大震災の直後から“大災害に強い病院づくり”を目指してきました。その集大成として、この 3 月に“災害医療対応棟”が完成しました。病院棟は免震構造を有するだけでなく、津波などでの浸水時は、ホバークラフトのように全体が浮く構造も有しています。さらに今回の増築により、自家発電量を倍増、負傷者の受け入れ時、負傷者待機室としてコロナ禍の経験を元に陰圧個室を含め感染者の隔離可能なスペースを設置、水や食料・医療物資のための防災備蓄倉庫を拡充、医療スタッフの当直待機場所も確保されました。
天災にしろ人災にしろ、いわゆる”有事”は、いつ訪れるかわかりません。3 月に入って、世界でも日本でも他人事ではない有事が見受けられます。医師として人間として何ができるのか自問するきっかけにもなりました。

遡って 10 月には、娘と長男が通う小学校の 5.6 年生に感染対策の授業をしました。娘は学友と共にタブレット片手に真剣に耳を傾けていたようです。親としてかけがえのない時間を頂戴し、感謝の気持ちで一杯です。

また、薬物療法センターの運営・PCT・ICT、研修医の受け入れ、スタッフ向けの勉強会は、私のできる範囲で継続、輸血 IV ナース・薬物療法 IV ナースの育成や PEACE の緩和ケア研修会の司会や講師も務めました。

最後に、4 月に母の享年(50)に並びました。親の有難さと己の親としての至らなさを痛感する日々でもありました。

今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願いいたします。

2022.3.

感染対策の授業

# 海南医療センターでの血液診療

海南医療センター　内科　弘井 孝幸

昨年に引き続きコロナウイルスが猛威を振るい、遠出することもほぼなく、ひっそりと冬季五輪も終了し、いつのまにか年度が終了しようとしています。同じ血液内科の先生方ですら顔を合わせることのない状況が続いていますが、皆様変わりなくお過ごしでしょうか。私は特に変化なく、古家先生と海南医療センターで内科診療を頑張りつつ日々を送っております。

4 月から再び海南医療センターに着任し、慣れた環境で診療させていただいているおかげで少しは周りを見る余裕が生まれたかなと感じております。7 月から私と古家先生の二人体制となり、園木先生、細井先生に加え田畑先生も外来にきてくれるようになったことで、毎日血液内科の専門外来を行うようになりました。諸先生方には相談させていただくことも多く、特に細井先生には感謝の念に堪えません。

病棟診療に関しては、すっかり慣れた古家先生とのコンビということもあり、大きな問題もなく診療にあたることができたと感じています。変化があったとすればベネクレクスタ®が使用可能となり、高齢者の AML 治療の選択肢が広がったことで、当院でも AML 患者の受け入れが多くなったことが挙げられます。当院には無菌室が 2 床しかありませんが、例年に比べてその 2 床が埋まることが多くありました。また、当院は積極的にコロナ患者を受け入れており、その影響で内科が使用できる病床が制限されてしまう事態も何度かありました。そんな中でも血液疾患患者の入院を優先していただき、なんとか血液診療に大きな影響を与えることなく診療させていただくことができました。その他影響されたこととして、高齢者が多いという特性上当院で最期を迎える患者様も多く、面会制限のため満足にご家族に面会させてやることができなかった点があり、最も悔やまれるところでした。

私個人のことでは、今年血液専門医を無事取得いたしました。それに伴い 2022 年度より海南医療センターも血液専門研修教育施設となります。また内科専門医制度における指導医にもなったため、他の内科医師のお手を煩わせることなく、若い先生の指導を行うことができるようになったと考えています。来年度は榊先生が赴任されますが、榊先生の専門医取得の障害とならないよう気を引き締めてサポートしていく所存です。榊先生とは医大勤務中にもチームを組んでいたため誠実で熱心な姿はよく存じているところであり、また一緒に働けることを非常にうれしく思っております。

血液内科には今年も優秀な先生が入局されたと聞いています。若い先生方が大学院で研究に励まれたり外に出て研鑽されたりするのを頼もしく感じながら、益々医局が発展し、和歌山の血液診療が充足していくことを期待しています。コロナ禍で人と人とのつながりが希薄になっているといわれるこの時代、経験することがないと思っていたパンデミックや戦争、疾病がより身近で感じられることも多くあり、確実に変化する世の中で今後の人生について考えさせられる毎日でした。時代の変化に適応しながらも自分らしく過ごせるよう、また皆様が変わらず過ごせることを願うばかりです。

これからも地域での血液診療の一端を担えるよう努力を重ねていく所存ですので、引き続き変わらぬご指導ご支援のほどよろしくお願いいたします。

紀南病院血液内科医長　森本将矢

血液内科医局員の皆様、お元気でしょうか。紀南病院の横矢先生と森本は日々元気に過ごしております。横矢先生は卒後 5 年目となり臨床医としてもっとも成長する時期でもあり、毎日ベッドサイドに足を運んでとてもよく頑張ってくれています。今年からは毎週横矢先生の外来枠を作ってもらい外来診療も独立してできるようになっています。火曜日と金曜日は昨年同様に地域枠の寺本先生と谷河先生がそれぞれ血液内科外来診療で研修してくれていて、田村先生と蒸野先生の素晴らしいご指導のもと毎週成長しています。寺本先生は今年から内科の一員として紀南病院に来てくれて毎日 COVID19 や一般内科診療、内視鏡検査、救急外来当番など頑張っています。
後輩たちの頑張っている姿から私自身も大変刺激を受けており感謝しています。私の報告としては昨年度末に無事聖路加国際大学院公衆衛生研究科の修士(MPH)を修了しました。今年は感染症専門医の取得を目指しておりますが、自分の分野である「免疫不全の感染症・公衆衛生」でより一層励みたいと思います。私も卒後 11 年目となりました。私の大切な同期に山下先生・大岩先生・小畑先生がいますが彼らがいるので日々頑張る活力をもらえます。大岩先生・小畑先生は今は医局から離れていますが、それぞれ別の場所でお互いに頑張っていきたいと思います。
毎年新入局の先生が入ってくれて、今年はがんセンターから堀先生が帰ってきてくれて、より和歌山医大血液内科が盛り上がっていくことは非常に嬉しいです。臨床研究・基礎研究などそれぞれ自分の強みや得意な分野を見つけて、和歌山医大血液内科全体がより大きくなっていけるようにしたいですね。今後もどうぞよろしくお願いいたします。